

# VMware Horizon HTML Access のインストールと セットアップ ガイド

更新日：2018 年 5 月 29 日

VMware Horizon HTML Access 4.8

VMware Horizon 7 7.5



vmware®

最新の技術ドキュメントは VMware の Web サイト (<https://docs.vmware.com/jp/>) にあります  
このドキュメントに関するご意見およびご感想がある場合は、[docfeedback@vmware.com](mailto:docfeedback@vmware.com) までお送りください。

**VMware, Inc.**  
3401 Hillview Ave.  
Palo Alto, CA 94304  
[www.vmware.com](http://www.vmware.com)

ヴィエムウェア株式会社  
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5  
浜松町スクエア 13F  
[www.vmware.com/jp](http://www.vmware.com/jp)

Copyright © 2013–2018 VMware, Inc. 無断転載を禁ず。 [著作権および商標情報](#)。

# 目次

## VMware Horizon HTML Access のインストールとセットアップ ガイド 5

- 1 セットアップとインストール 6
  - HTML Access のシステム要件 7
  - 接続サーバとセキュリティ サーバの準備 9
    - クライアント Web ブラウザ アクセスのファイアウォール ルール 10
  - キャッシュから認証情報を削除するための Horizon 7 の構成 11
  - デスクトップ、プール、ファームの準備 11
  - セッション共同作業機能の要件 13
  - 新しい TLS 証明書を使用するように HTML Access Agent を構成する 14
    - リモート デスクトップの MMC への証明書スナップインの追加 15
    - HTML Access Agent 証明書の Windows 証明書ストアへのインポート 15
    - HTML Access Agent のルート証明書と中間証明書のインポート 16
    - Windows レジストリへの証明書のサムプリントを設定する 17
  - 特定の暗号化スイートを使用するために HTML Access Agent を構成する 18
  - iOS で CA 署名証明書の使用を構成 18
  - Unified Access Gateway での CA 署名付き証明書の使用 18
  - HTML Access ソフトウェアのアップグレード 19
  - 接続サーバからの HTML Access コンポーネントのアンインストール 19
  - VMware によって収集されるデータ 19
- 2 エンド ユーザー用に HTML Access を構成 22
  - エンド ユーザー用の VMware Horizon Web ポータル ページの構成 22
  - URI を使用した HTML Access Web Client の構成 26
    - HTML Access の URI を作成するための構文 26
    - URI の例 29
  - HTML Access グループ ポリシー設定 32
- 3 リモート デスクトップまたはアプリケーションの使用 33
  - 機能サポーター一覧 34
  - 国際化 35
  - リモート デスクトップまたはアプリケーションへの接続 35
    - 自己署名付ルート証明書の信頼 37
  - Workspace ONE モードでのサーバへの接続 38
  - 公開アプリケーションへの接続に非認証のアクセスを使用する 38
  - ショートカット キーの組み合わせ 39
  - 国際キーボード 43
  - スクリーン解像度 43

H.264 デコードの許可	44
タイム ゾーンの設定	45
サイドバーの使用	45
複数のモニターの使用	48
DPI 同期の使用	49
音声	50
テキストのコピーおよび貼り付け	50
コピーおよび貼り付け機能の使用	51
クライアントとリモート デスクトップ間でのファイルの転送	52
デスクトップからクライアントにファイルをダウンロード	53
クライアントからデスクトップへファイルのアップロード	53
Web カメラとマイクでリアルタイム オーディオ ビデオ機能を使用	54
セッション共同作業機能の使用	55
リモート デスクトップ セッションに参加するユーザーの招待	55
共同作業セッションの管理	57
共同作業セッションへの参加	57
ログオフまたは切断	58
リモート デスクトップまたは公開アプリケーションのリセット	59
リモート デスクトップの再起動	60

# VMware Horizon HTML Access のインストールと セットアップ ガイド

この『VMware Horizon HTML Access のインストールとセットアップ ガイド』では、VMware Horizon<sup>®</sup> HTML Access<sup>™</sup> ソフトウェアをインストールして設定し、使用方法について説明します。クライアントシステムにソフトウェアをインストールせずに仮想デスクトップに接続する方法についても説明します。

このドキュメントでは、エンド ユーザーが Web ブラウザを使用してリモート デスクトップにアクセスできるように、VMware Horizon 7 Server およびリモート デスクトップ仮想マシンに HTML Access ソフトウェアをインストールするためのシステム要件および手順について説明しています。

---

**重要** この情報は、Horizon 7 および VMware vSphere を使用した経験がある管理者を対象としています。Horizon 7 に慣れていないユーザーである場合、『Horizon 7 のインストール』および『Horizon 7 管理ガイド』のステップを追った基本手順の参照が必要な場合があります。

---

# セットアップとインストール

HTML Access 用の Horizon 7 環境のセットアップでは、View 接続サーバでの HTML Access をインストールし、必要なポートを開き、リモート デスクトップ仮想マシンで HTML Access コンポーネントをインストールする作業が含まれます。

エンド ユーザーは、サポートされるブラウザを開いて、View 接続サーバの URL を入力してリモート デスクトップにアクセスできます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [HTML Access のシステム要件](#)
- [接続サーバとセキュリティ サーバの準備](#)
- [キャッシュから認証情報を削除するための Horizon 7 の構成](#)
- [デスクトップ、プール、ファームの準備](#)
- [セッション共同作業機能の要件](#)
- [新しい TLS 証明書を使用するように HTML Access Agent を構成する](#)
- [特定の暗号化スイートを使用するために HTML Access Agent を構成する](#)
- [iOS で CA 署名証明書の使用を構成](#)
- [Unified Access Gateway での CA 署名付き証明書の使用](#)
- [HTML Access ソフトウェアのアップグレード](#)
- [接続サーバからの HTML Access コンポーネントのアンインストール](#)
- [VMware によって収集されるデータ](#)

## HTML Access のシステム要件

HTML Access を使用すれば、クライアント システムでは、サポートされるブラウザ以外のソフトウェアは必要ありません。Horizon 7 の導入では、特定のソフトウェア要件を満たす必要があります。

**注意** バージョン 7.0 から、View Agent が Horizon Agent という名前に変更されました。

### クライアント システムのブラウザ

ブラウザ	バージョン
Chrome	65、66
Android デバイスの Chrome	65 以降
Internet Explorer	11
Safari	11
モバイル デバイスの Safari	iOS 10、iOS 11
Firefox	59、60
Microsoft Edge	41、42

#### 注意

- Android デバイスの Chrome は、Windows キー、マルチモニター、システムへのコピーと貼り付け、ファイル転送、印刷、H.264 デコード、認証情報のクリーンアップ、外部マウスをサポートしていません。ソフトウェア キーボードで次のキーとキーの組み合わせは機能しません。Del、Ctrl+A、Ctrl+C、Ctrl+V、Ctrl+X、Ctrl+Y、Ctrl+Z。
- モバイル デバイスの Safari は、Windows キー、マルチモニター、システムへのコピーと貼り付け、ファイル転送、印刷、H.264 デコード、認証情報のクリーンアップをサポートしていません。

### クライアント オペレーティング システム

オペレーティング システム	バージョン
Windows	7 SP1 (32 ビットおよび 64 ビット)
Windows	8.x (32 ビットおよび 64 ビット)
Windows	10 (32 ビットおよび 64 ビット)
Mac OS X	10.12.x (Sierra)
macOS	10.13.x (High Sierra)
iOS	10、11
Chrome OS	28.x 以降
Android	7、8

リモート デスクトップ	HTML Access では Horizon Agent 7.0 以降が必要となり、Horizon 7.0 がサポートするすべてのデスクトップ オペレーティング システムがサポートされます。詳細については、バージョン 7.0 以降の『View のインストール』の「Horizon Agent でサポートされるオペレーティング システム」トピックを参照してください。
プールの設定	<p>HTML Access では、Horizon Administrator で以下のプール設定が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ [1 台のモニターの最大解像度] 設定は [1920x1200] 以上にする必要があります。ため、リモート デスクトップは少なくとも 17.63 MB のビデオ RAM が必要です。</li></ul> <p>3D アプリケーションを使用する場合や、エンドユーザーが MacBook を Retina Display や Google Chromebook Pixel と併用する場合には、<a href="#">「スクリーン解像度」</a> を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ [HTML Access] 設定は有効にする必要があります。</li></ul> <p>構成手順は、<a href="#">「デスクトップ、プール、ファームの準備」</a> を参照してください。</p>
接続サーバ	<p>接続サーバと HTML Access オプションをサーバにインストールする必要があります。</p> <p>HTML Access コンポーネントをインストールするときに、ファイアウォールが TCP ポート 8443 へのインバウンド トラフィックを許可するように自動的に構成するため、Windows ファイアウォールで [VMware Horizon View 接続サーバ (Blast-In)] ルールが有効になります。</p>
セキュリティ サーバ	<p>接続サーバと同じバージョンをセキュリティ サーバにインストールする必要があります。</p> <p>企業のファイアウォールの外部からクライアント システムが接続する場合には、セキュリティ サーバを使用します。セキュリティ サーバでは、クライアント システムで VPN 接続は不要です。</p> <hr/> <p><b>注意</b> 1 つセキュリティ サーバは、最大で 800 個の Web クライアントへの接続を同時にサポートできます。</p> <hr/>
サードパーティ ファイアウォール	<p>以下のトラフィックを許可するための規則を追加します：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ サーバ (セキュリティ サーバ、接続サーバ インスタンス、およびレプリカ サーバを含む)：TCP ポート 8443 へのインバウンド トラフィック。</li><li>■ リモート デスクトップ 仮想マシン：TCP ポート 22443 へのインバウンド トラフィック (サーバから)。</li></ul>
Horizon の表示プロトコル	<p>VMware Blast</p> <p>Web ブラウザを使用してリモート デスクトップにアクセスするときは、PCoIP または Microsoft RDP ではなく VMware Blast プロトコルが使用されます。VMware Blast は HTTPS (HTTP over SSL/TLS) を使用します。</p>



## 接続サーバとセキュリティ サーバの準備

エンドユーザーがサーバに接続し、リモート デスクトップや公開アプリケーションにアクセスできるようにするには、Horizon 管理者が接続サーバをインストールする必要があります。セキュリティ サーバを使用する場合は、このサーバもインストールする必要があります。

外部アクセスを安全に行うために、セキュリティ サーバではなく、Unified Access Gateway アプライアンスを使用することもできます。詳細については、『Unified Access Gateway の導入および設定』を参照してください。

以下のチェック リストに、HTML Access を使用するために必要な Horizon 管理者のタスクを示します。

- 1 接続サーバの複製グループを含む 1 つ以上のサーバで、[HTML Access のインストール] の設定を使用して接続サーバをインストールします。この設定は、HTML Access コンポーネントをインストールします。インストーラで、この設定はデフォルトで選択されます。詳細については、『Horizon 7 のインストール』を参照してください。

HTML Access コンポーネントがインストールされていることを確認するには、Windows の [プログラムのアンインストール] アプレットを開き、リストで [VMware Horizon 7 HTML Access] を検索します。

- 2 セキュリティ サーバを使用する場合は、セキュリティ サーバをインストールします。セキュリティ サーバのバージョンは、接続サーバのバージョンと一致している必要があります。インストール方法については、『Horizon 7 のインストール』を参照してください。
- 3 それぞれの接続サーバ インスタンスまたはセキュリティ サーバが、ユーザーが Web ブラウザで入力するホスト名を使用して完全に検証できる TLS 証明書を持つことを確認します。詳細については、『Horizon 7 のインストール』を参照してください。
- 4 RSA SecurID または RADIUS 認証などの 2 要素認証を使用するには、接続サーバでこの機能が有効であることを確認してください。詳細については、『Horizon 7 の管理』の 2 要素認証についてのトピックを参照してください。

---

**重要** [クライアントのユーザー インターフェイスでドメイン リストを非表示] 設定を有効にしており、接続サーバ インスタンスで 2 要素認証 (RSA SecureID または RADIUS) を選択している場合、Windows ユーザー名の一致を強制しないでください。Windows ユーザー名の一致を強制すると、ユーザーは、ユーザー名のテキストボックスにドメイン情報を入力できなくなり、ログインが常に失敗します。詳細については、『Horizon 7 の管理』の 2 要素認証についてのトピックを参照してください。

---

- 5 サードパーティのファイアウォールを使用する場合は、複製されたグループのすべてのセキュリティ サーバおよび接続サーバのホストで TCP ポート 8443 へのインバウンドトラフィックを許可するようにルールを構成し、データセンターのリモート デスクトップの仮想マシンと RDS ホストの TCP ポート 22443 に (サーバからの) インバウンドトラフィックを許可するためのルールを構成します。詳細については、『[クライアント Web ブラウザアクセスのファイアウォール ルール](#)』を参照してください。
- 6 認証なくても公開アプリケーションにアクセスできるようにするには、接続サーバでこの機能を有効にします。詳細については、『Horizon 7 の管理』を参照してください。

サーバがインストールされると、Horizon Administrator で該当する接続サーバ インスタンスとセキュリティ サーバの [Blast Secure Gateway] 設定が有効になります。また、該当する接続サーバ インスタンスとセキュリティ サーバの Blast Secure Gateway で使用するように、[Blast 外部 URL] 設定を構成します。デフォルトでは、URL には安全なトンネル外部 URL の FQDN およびデフォルトのポート番号 8443 が含まれます。URL には、クライアントシステムが接続サーバのホストまたはセキュリティ サーバのホストに到達できる FQDN およびポート番号を含める必要があります。詳細については、『Horizon 7 のインストール』ドキュメントの「接続サーバ インスタンスの外部 URL を設定する」を参照してください。

**注意** HTML Access を VMware Workspace ONE と一緒に使用すると、ユーザーが HTML5 ブラウザから自分のデスクトップに接続できます。Workspace ONE のインストールおよび接続サーバで使用するための構成についての詳細は、Workspace ONE のマニュアルを参照してください。接続サーバを SAML 認証サーバとペアにする詳細については、『Horizon 7 の管理』を参照してください。

## クライアント Web ブラウザ アクセスのファイアウォール ルール

セキュリティ サーバ、接続サーバ インスタンス、リモート デスクトップ、公開アプリケーションに接続することをクライアント Web ブラウザに許可するには、ファイアウォールで特定の TCP ポートの受信トラフィックを許可する必要があります。

HTML Access 接続は HTTPS を使用する必要があります。HTTP 接続は許可されません。

デフォルトでは、接続サーバ インスタンスまたはセキュリティ サーバをインストールする場合、ファイアウォールが TCP ポート 8443 へのインバウンドトラフィックを許可するように構成するため、Windows ファイアウォールで [VMware Horizon View 接続サーバ (Blast-In)] ルールが有効になります。

表 1-1. クライアント ブラウザ アクセスのファイアウォール ルール

Source	デフォルトの送信元ポート	プロトコル	送信先	デフォルトの送信先ポート	注
クライアント Web ブラウザ	すべての TCP	HTTPS	セキュリティ サーバまたは接続サーバ インスタンス	TCP 443	最初に接続するために、クライアント デバイスの Web ブラウザは、TCP ポート 443 でセキュリティ サーバまたは接続サーバ インスタンスに接続します。
クライアント Web ブラウザ	すべての TCP	HTTPS	Blast Secure Gateway	TCP 8443	最初の接続が行われた後、クライアント デバイスの Web ブラウザは、TCP ポート 8443 で Blast Secure Gateway に接続します。この第 2 の接続を許可するためには、Blast Secure Gateway をセキュリティ サーバまたは接続サーバ インスタンスで有効にする必要があります。

表 1-1. クライアント ブラウザ アクセスのファイアウォール ルール (続き)

Source	デフォルトの送信元ポート	プロトコル	送信先	デフォルトの送信先ポート	注
Blast Secure Gateway	すべての TCP	HTTPS	HTML Access Agent	TCP 22443	Blast Secure Gateway が有効になっている場合、ユーザーがリモート デスクトップまたは公開アプリケーションを選択すると、Blast Secure Gateway はリモート デスクトップ仮想マシンまたは RDS ホストの TCP ポート 22443 で HTML Access Agent に接続します。このエージェント コンポーネントは、Horizon Agent のインストールに含まれています。
クライアント Web ブラウザ	すべての TCP	HTTPS	HTML Access Agent	TCP 22443	Blast Secure Gateway が有効になっていない場合、ユーザーがリモート デスクトップまたは公開アプリケーションを選択すると、クライアント デバイスの Web ブラウザはデスクトップ仮想マシンまたは RDS ホストの TCP ポート 22443 で HTML Access Agent に直接接続します。このエージェント コンポーネントは、Horizon Agent のインストールに含まれています。

## キャッシュから認証情報を削除するための Horizon 7 の構成

ユーザーがリモート デスクトップまたはアプリケーションに接続しているタブを閉じるか、またはデスクトップとアプリケーションの選択ウィンドウに接続しているタブを閉じた際に、ユーザーの認証情報をキャッシュから削除するように Horizon 7 を設定できます。

この機能が無効になっている場合（デフォルト設定）、認証情報はキャッシュに残ります。

**注意** この機能を有効にすると、ユーザーがデスクトップやアプリケーションの選択ページやリモート セッション ページを更新するとき、またはリモート セッションが含まれるタブで URI コマンドを実行するときに、認証情報はキャッシュからも削除されます。サーバで自己署名証明書を提示する場合、ユーザーがリモート デスクトップや公開アプリケーションを起動し、セキュリティの警告が表示されるときに証明書を受け入れた後に、認証情報はキャッシュから削除されます。

### 開始する前に

この機能には、Horizon 7 バージョン 7.0.2 以降が必要です。

### 手順

- 1 Horizon Administrator で、[View 構成] - [グローバル設定] を選択し、[全般] ペインで [編集] をクリックします。
- 2 [HTML Access のタブを閉じるときに認証情報をクリーンアップする] チェック ボックスをオンにします。
- 3 変更内容を保存するには、[OK] をクリックします。

変更は直ちに有効になります。接続サーバの再起動は不要です。

## デスクトップ、プール、ファームの準備

エンドユーザーがリモート デスクトップや公開アプリケーションにアクセスできるようにするには、まず Horizon 管理者が特定のプールおよびファームの設定を構成し、データセンターのデスクトップ仮想マシンと RDS ホストに Horizon Agent をインストールする必要があります。

Horizon Client ソフトウェアがクライアント システムにインストールされていない場合は、HTML Access クライアントが代わりにになります。

---

**注意** Horizon Client ソフトウェアは、HTML Access クライアントより多くの機能と優れたパフォーマンスを提供します。たとえば、HTML Access クライアントではリモート デスクトップで一部のキーの組み合わせが機能しませんが、Horizon Client ではこれらのキーの組み合わせが機能します。

---

#### 開始する前に

- Horizon コンポーネントが HTML Access のシステム要件を満たしていることを確認します。[「HTML Access のシステム要件」](#)を参照してください。
- HTML Access コンポーネントがホストの接続サーバにインストールされていること、および接続サーバ インスタンスと任意のセキュリティ サーバの Windows ファイアウォールによって、TCP ポート 8443 でインバウンドトラフィックが許可されることを確認してください。[「接続サーバとセキュリティ サーバの準備」](#)を参照してください。
- サードパーティのファイアウォールを使用する場合、Horizon サーバからデータセンターのデスクトップ仮想マシンと RDS ホストの TCP ポート 22443 にインバウンドトラフィックを許可するルールを設定します。[「クライアント Web ブラウザ アクセスのファイアウォール ルール」](#)を参照してください。
- デスクトップ ソースとして使用する仮想マシンまたは公開デスクトップとアプリケーションをホストする RDS ホストに、サポート対象のオペレーティング システムと VMware Tools がインストールされていることを確認します。[「HTML Access のシステム要件」](#)を参照してください。
- プールおよびファームを作成し、ユーザーに資格を付与する手順について理解しておきます。『Horizon 7 での仮想デスクトップのセットアップ』と『Horizon 7 での公開されたデスクトップとアプリケーションのセットアップ』を参照してください。
- エンドユーザーがリモート デスクトップまたは公開アプリケーションにアクセス可能であることを確認するには、クライアント システムに Horizon Client for Windows をインストールします。Web ブラウザから接続を試みる前に、Horizon Client for Windows を使用して接続をテストできます。インストール方法については、『VMware Horizon Client for Windows のインストールとセットアップ ガイド』を参照してください。
- リモート デスクトップまたは公開アプリケーションにアクセスするためにサポートされているブラウザのいずれかがあることを確認します。[「HTML Access のシステム要件」](#)を参照してください。

#### 手順

- 1 公開デスクトップとアプリケーションについては、Horizon Administrator を使用してファームを作成または編集し、[このファームのデスクトップへの HTML Access を許可] オプションをファームの設定で有効にします。
- 2 仮想デスクトップ プールについては、プールを HTML Access で使用できるように Horizon Administrator を使用してデスクトップ プールを作成または編集します。
  - a [デスクトップ プール] 設定で、[HTML Access] を有効にします。
  - b このプール設定では、[1 台のモニターの最大解像度] 設定が [1920x1200] 以上であることを確認します。

- 3 Horizon Agent を使用するように、[このファームのデスクトップおよびアプリケーションへの HTML Access を許可] オプションまたは [HTML Access] オプションを使用してプールの作成、再構成、またはアップグレードを行った後に、Horizon Client for Windows を使用して、リモート デスクトップまたは公開アプリケーションに接続します。

このステップでは、HTML Access の使用を試みる前に、プールが正常に動作することを確認してください。

- 4 サポートされるブラウザを開き、接続サーバ インスタンスを指定する URL を入力します。

例：

```
https://horizon.mycompany.com
```

URL には **https** を含める必要があります。

- 5 表示される Web ページで、Horizon Client for Windows の場合と同じように、[VMware Horizon HTML Access] をクリックしてログインします。
- 6 表示されるデスクトップおよびアプリケーション選択のページで、アイコンをクリックして接続します。

これで、Web ブラウザからリモート デスクトップや公開アプリケーションにアクセスできるようになりました。

次に進む前に

セキュリティの強化のため、リモートデスクトップで HTML Access Agent による認証局からの TLS 証明書を使用することがセキュリティ ポリシーで必須とされている場合は「[新しい TLS 証明書を使用するように HTML Access Agent を構成する](#)」を参照してください。

## セッション共同作業機能の要件

セッション共同作業機能を使用すると、他のユーザーを既存の Windows リモート デスクトップ セッションに招待できます。セッション共同作業機能を使用するには、Horizon 環境が特定の要件を満たしている必要があります。

### セッション共同作業者

共同作業セッションに参加するには、ユーザーがクライアントシステムに 4.7 以降の Horizon Client for Windows、Mac、または Linux をインストールしているか、HTML Access 4.7 以降を使用する必要があります。

### Windows リモート デスクトップ

- Horizon Agent 7.4 以降を仮想デスクトップまたは公開デスクトップの RDS ホストにインストールする必要があります。
- セッション共同作業機能をデスクトップ プールまたはファーム レベルで有効にしておく必要があります。デスクトップ プールでセッション共同作業機能を有効にする方法については、『Horizon 7 での仮想デスクトップのセットアップ』ドキュメントを参照してください。ファームでセッション共同作業機能を有効にする方法については、『Horizon 7 での公開されたデスクトップとアプリケーションのセットアップ』ドキュメントを参照してください。

Horizon Agent グループ ポリシー設定を使用して、セッション共同作業機能を設定します。詳細については、『Horizon 7 でのリモート デスクトップ機能の構成』を参照してください。

セッション共同作業機能は、Linux リモート デスクトップ セッションや公開アプリケーション セッションには対応していません。

**接続サーバ**                      セッション共同作業機能を利用するには、接続サーバインスタンスでエンタープライズ ライセンスを使用している必要があります。

**表示プロトコル**                      VMware Blast

## 新しい TLS 証明書を使用するように HTML Access Agent を構成する

業界の規制やセキュリティ規制を遵守するため、証明書認証局 (CA) が署名した証明書と HTML Access Agent が生成するデフォルトの TLS 証明書を置き換えることができます。

リモート デスクトップに HTML Access Agent をインストールすると、HTML Access Agent サービスがデフォルトの自己署名の証明書を作成します。このサービスは、HTML Access を使用するブラウザにデフォルトの証明書を提示します。

---

**注意** デスクトップ仮想マシンのゲスト OS で、このサービスは VMware Blast サービスと呼ばれます。

---

デフォルトの証明書を CA から取得する署名された証明書に置き換えるには、証明書を各リモート デスクトップの Windows ローカル コンピュータ証明書ストアにインポートする必要があります。また、HTML Access Agent が新しい証明書を使用できるように、レジストリ値を設定する必要があります。

デフォルトの HTML Access Agent 証明書を CA が署名した証明書に置き換える場合、各リモート デスクトップで一意的な証明書を構成します。親仮想マシンまたはデスクトップ プールを作成するために使用するテンプレートに CA が署名した証明書を構成しないでください。この方法では、数百または数千台のリモート デスクトップが同じ証明書を持つことになります。

### 手順

#### 1 リモート デスクトップの MMC への証明書スナップインの追加

Windows ローカル コンピュータ証明書ストアに証明書を追加する前に、HTML Access Agent がインストールされるリモート デスクトップで Microsoft Management Console (MMC) に証明書のスナップインを追加する必要があります。

#### 2 HTML Access Agent 証明書の Windows 証明書ストアへのインポート

デフォルトの HTML Access Agent 証明書を CA によって署名された証明書に置き換えるには、Windows ローカル コンピュータ証明書ストアに CA によって署名された証明書をインポートする必要があります。HTML Access Agent がインストールされている各リモート デスクトップでこの手順を実行します。

#### 3 HTML Access Agent のルート証明書と中間証明書のインポート

証明書チェーンのルート証明書と中間証明書が、HTML Access Agent にインポートした SSL 証明書と共にインポートされていない場合、Windows ローカル コンピュータ証明書ストアにこれらの証明書をインポートする必要があります。

#### 4 Windows レジストリへの証明書のサムプリントを設定する

HTML Access Agent が、Windows 証明書ストアへインポートされた CA 署名の証明書を使用できるように、Windows レジストリ キーの証明書サムプリントを構成する必要があります。デフォルト証明書を CA 署名の証明書に交換する各リモート デスクトップでこの手順を実行する必要があります。

## リモート デスクトップの MMC への証明書スナップインの追加

Windows ローカル コンピュータ証明書ストアに証明書を追加する前に、HTML Access Agent がインストールされるリモート デスクトップで Microsoft Management Console (MMC) に証明書のスナップインを追加する必要があります。

### 開始する前に

MMC および証明書のスナップインが、HTML Access Agent がインストールされている Windows ゲスト OS で使用できることを確認します。

### 手順

- 1 リモート デスクトップで、[スタート] をクリックして **mmc.exe** を入力します。
- 2 **[MMC]** ウィンドウで、[ファイル]-[スナップインの追加と削除] に移動します。
- 3 **[スナップインの追加と削除]** ウィンドウで、[証明書] を選択し、[追加] をクリックします。
- 4 **[証明書スナップイン]** ウィンドウで、[コンピュータ アカウント] を選択し、[次へ] をクリックし、[ローカル コンピュータ] を選択し、[終了] をクリックします。
- 5 **[スナップインの追加と削除]** ウィンドウで、[OK] をクリックします。

### 次に進む前に

SSL 証明書を Windows ローカル コンピュータ証明書ストアにインポートします。[\[HTML Access Agent 証明書の Windows 証明書ストアへのインポート\]](#) を参照してください。

## HTML Access Agent 証明書の Windows 証明書ストアへのインポート

デフォルトの HTML Access Agent 証明書を CA によって署名された証明書に置き換えるには、Windows ローカル コンピュータ証明書ストアに CA によって署名された証明書をインポートする必要があります。HTML Access Agent がインストールされている各リモート デスクトップでこの手順を実行します。

### 開始する前に

- リモート デスクトップで HTML Access Agent がインストールされていることを確認します。
- CA によって署名された証明書がリモート デスクトップにコピーされたことを確認します。
- 証明書のスナップインが MMC に追加されたことを確認します。[\[リモート デスクトップの MMC への証明書スナップインの追加\]](#) を参照してください。

### 手順

- 1 リモート デスクトップの MMC ウィンドウで、[証明書 (ローカル コンピュータ)] ノードを拡張して [個人] フォルダを選択します。
- 2 [操作] ペインで、[追加の操作]-[すべてのタスク]-[インポート] の順に移動します。
- 3 **[Certificate Import (証明書のインポート)]** ウィザードで、[次へ] をクリックして証明書が格納されている場所を参照します。



- 4 証明書ファイルを選択して [開く] をクリックします。

証明書ファイルのタイプを表示するには、[ファイル名] ドロップダウン メニューからそのファイル形式を選択できます。

- 5 証明書ファイルに含まれるプライベート キーのパスワードを入力します。

- 6 [この鍵をエクスポート可能にマークする] を選択します。

- 7 [すべての拡張可能なプロパティを含む] を選択します。

- 8 [次へ] をクリックして [終了] をクリックします。

新しい証明書が [証明書 (ローカル コンピュータ)] - [個人] - [証明書] フォルダに表示されます。

- 9 新しい証明書にプライベート キーが含まれていることを確認します。

- a [証明書 (ローカル コンピュータ)] - [個人] - [証明書] フォルダで、新しい証明書をダブルクリックします。
- b [証明書情報] ダイアログ ボックスの [全般] タブで、「この証明書に対応するプライベート キーがあります。」というメッセージが表示されることを確認します。

#### 次に進む前に

必要に応じて、ルート証明書と中間証明書を Windows 証明書ストアにインポートします。[\[HTML Access Agent のルート証明書と中間証明書のインポート\]](#) を参照してください。

適切なレジストリ キーを証明書のサムプリントで構成します。[\[Windows レジストリへの証明書のサムプリントを設定する\]](#) を参照してください。

## HTML Access Agent のルート証明書と中間証明書のインポート

証明書チェーンのルート証明書と中間証明書が、HTML Access Agent にインポートした SSL 証明書と共にインポートされていない場合、Windows ローカル コンピュータ証明書ストアにこれらの証明書をインポートする必要があります。

#### 手順

- 1 リモート デスクトップの MMC コンソールで、[証明書 (ローカル コンピュータ)] ノードを拡張して [信頼されたルート証明機関] - [証明書] フォルダに移動します。
  - ルート証明書がこのフォルダにあり、証明書チェーン内に中間証明書がない場合は、この手順をスキップします。
  - ルート証明書がこのフォルダになければ、手順 2 に進みます。
- 2 [信頼されたルート証明機関] - [証明書] フォルダを右クリックし、[すべてのタスク] - [インポート] をクリックします。
- 3 [証明書のインポート] ウィザードで、[次へ] をクリックしてルート CA 証明書が保存されている場所を参照します。
- 4 ルート CA 証明書ファイルを選択し、[開く] をクリックします。
- 5 [次へ] をクリックし、[次へ] をクリックし、そして [終了] をクリックします。



- 6 サーバ証明書に中間 CA が署名している場合は、証明書チェーンのすべての中間証明書を Windows ローカル コンピュータ証明書ストアにインポートします。
  - a [証明書 (ローカル コンピュータ)] - [中間証明機関] - [証明書] フォルダに移動します。
  - b インポートする必要がある各中間証明書で手順 3 から 6 を繰り返します。

次に進む前に

適切なレジストリ キーを証明書のサムプリントで構成します。[\[Windows レジストリへの証明書のサムプリントを設定する\]](#)を参照してください。

## Windows レジストリへの証明書のサムプリントを設定する

HTML Access Agent が、Windows 証明書ストアへインポートされた CA 署名の証明書を使用できるように、Windows レジストリ キーの証明書サムプリントを構成する必要があります。デフォルト証明書を CA 署名の証明書に交換する各リモート デスクトップでこの手順を実行する必要があります。

開始する前に

CA 署名の証明書が、Windows 証明書ストアへインポートされていることを確認します。[\[HTML Access Agent 証明書の Windows 証明書ストアへのインポート\]](#)を参照してください。

手順

- 1 HTML Access Agent がインストールされているリモート デスクトップの MMC ウィンドウで、[証明書 (ローカル コンピュータ)] - [個人] - [証明書] フォルダの順に移動します。
- 2 Windows 証明書ストアへインポートした CA 署名の証明書をダブルクリックします。
- 3 [証明書] ダイアログ ボックスで、[詳細] タブをクリックし、スクロール ダウンして、[サムプリント] アイコンを選択します。
- 4 選択したサムプリントをテキスト ファイルにコピーします。

例： 31 2a 32 50 1a 0b 34 b1 65 46 13 a8 0a 5e f7 43 6e a9 2c 3e

---

**注意** サムプリントをコピーする場合は、先頭にあるスペースを含めないでください。サムプリントとともに先頭にあるスペースをレジストリ キー（手順 7）に誤って貼り付けると、証明書は正常に構成されない場合があります。先頭にあるスペースがレジストリの値テキスト ボックスに表示されなくても、この問題が発生する場合があります。

---

- 5 HTML Access Agent がインストールされたデスクトップで Windows レジストリ エディタを起動します。
- 6 HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\VMware, Inc.\VMware Blast\Config レジストリ キーに移動します。
- 7 SslHash 値を修正して、テキスト ボックスへ証明書サムプリントを貼り付けます。
- 8 Windows を再起動します。

ユーザーが HTML Access を介してリモート デスクトップへ接続する場合、HTML Access Agent はユーザーのブラウザに CA 署名の証明書を提供します。

## 特定の暗号化スイートを使用するために HTML Access Agent を構成する

HTML Access Agent を構成して、デフォルトの暗号化セットではなく特定の暗号化スイートを使用できます。

デフォルトでは、HTML Access Agent は、ネットワークからのデータの盗み出しや偽装に対して、強力な保護を提供する特定の暗号化に基づいた暗号を使用するために、SSL 接続の受信を必要とします。HTML Access Agent が使用する暗号化の代替リストを構成できます。許可される暗号化のセットは、OpenSSL 形式で表記されます。表記については、<https://www.openssl.org/docs/manmaster/man1/ciphers.html> に記載されています。

### 手順

- 1 HTML Access Agent がインストールされたデスクトップで Windows レジストリ エディタを起動します。
- 2 **HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\VMware, Inc.\VMware Blast\Config** レジストリ キーに移動します。
- 3 新しい文字列 (REG\_SZ) の値 **SslCiphers** を追加して、OpenSSL 形式で暗号化リストをテキスト ボックスに貼り付けます。
- 4 VMware Blast サービスを再起動して変更を有効にします。

Windows ゲスト OS では、HTML Access Agent のサービスは、VMware Blast と呼ばれます。

デフォルトの暗号化リストを使用するように戻すには、**SslCiphers** 値を削除して、VMware Blast サービスを再起動します。値のデータ部分を単に削除しないでください。データ部分を削除すると、HTML Access Agent は、OpenSSL 暗号化リスト形式の定義に従って、すべての暗号化を許可しなくなります。

HTML Access Agent が起動すると、VMware Blast サービスのログ ファイルに暗号化の定義を書き込みます。

**SslCiphers** 値が Windows レジストリで構成されていない状態で VMware Blast サービスが起動するときに、ログを調査して現在のデフォルトの暗号化リストを把握できます。

HTML Access Agent のデフォルトの暗号化定義は、セキュリティを向上するためにリリースごとに変更される場合があります。

## iOS で CA 署名証明書の使用を構成

iOS デバイスで HTML Access を使用するには、View 接続サーバまたは HTML Access Agent により生成されたデフォルトの SSL 証明書ではなく、証明機関 (CA) によって署名された SSL 証明書をインストールする必要があります。

手順については、『View のインストール』ドキュメントの「ルート証明書と中間証明書を信頼するように iOS 版 Horizon Client を構成する」を参照してください。

## Unified Access Gateway での CA 署名付き証明書の使用

接続サーバまたはセキュリティ サーバではなく Unified Access Gateway アプライアンスを使用する場合は、Subject Alternative Names (SAN) が設定された CA 署名付き証明書をインストールする必要があります。

SAN が設定されていない CA 署名付き証明書または自己署名証明書を使用すると、接続がプライベートではないエラーが発生し、HTML Access で接続できません。

---

**注意** 接続サーバ インスタンスまたはセキュリティ サーバを使用する場合は、「<ip-address> にアクセスする(安全ではありません)」リンクをクリックして接続できます。

---

Horizon 7 の証明書のインストールと設定の詳細については、『Horizon 7 のインストール』ドキュメントを参照してください。TLS 証明書を使用するように HTML Access エージェントを構成する方法については、「[新しい TLS 証明書を使用するように HTML Access Agent を構成する](#)」を参照してください。

## HTML Access ソフトウェアのアップグレード

HTML Access のほとんどのバージョンのアップグレードでは、接続サーバと View Agent のアップグレードだけが行われます。

HTML Access をアップグレードするときは、View 接続サーバの対応するバージョンが、複製されたグループのすべてのインスタンスにインストールされていることを確認します。

接続サーバをアップグレードすると、HTML Access が自動的にインストールされたり、アップグレードされます。

---

**注意** HTML Access コンポーネントがインストールされているかどうかを確認するには、Windows オペレーティングシステムの [プログラムのアンインストール] アプレットを開き、リストで HTML Access を探してください。

---

## 接続サーバからの HTML Access コンポーネントのアンインストール

他の Windows ソフトウェアを削除するために使用するのと同じ方法で HTML Access コンポーネントを削除できます。

### 手順

- 1 HTML Access がインストールされている接続サーバ インスタンスで、Windows コントロール パネルの [プログラムの追加と削除] を開きます。
- 2 [VMware Horizon 7 HTML Access] を選択して [アンインストール] をクリックします。
- 3 (オプション) そのホストの Windows ファイアウォールで、TCP ポート 8443 がインバウンドトラフィックを許可しないことを確認します。

### 次に進む前に

ペアのセキュリティ サーバの Windows ファイアウォールの TCP ポート 8443 に対するインバウンドトラフィックを非許可にします。適用可能な場合は、サードパーティ ファイアウォールで規則を変更して、すべてのペアのセキュリティ サーバとこの接続サーバ インスタンスで TCP ポート 8443 に対するインバウンドトラフィックを非許可にします。

## VMware によって収集されるデータ

所属する企業がカスタマ エクスペリエンス改善プログラムに参加している場合、VMware はクライアントの特定フィールドのデータを収集します。機密情報が含まれるフィールドは、匿名扱いとなります。

VMware は、クライアント上で情報を収集し、ハードウェアとソフトウェアの互換性を優先度付けします。Horizon 管理者がカスタム エクスペリエンス改善プログラムへの参加を決めた場合、VMware はお客様のご要望に対する VMware の対応を改善する目的で、現在ご使用の環境に関する匿名データを収集します。企業が特定できるような情報は収集されません。クライアントの情報はまず接続サーバに送信され、次いで、サーバ、デスクトップ プール、およびリモート デスクトップの情報とともに VMware に送信されます。

VMware カスタム エクスペリエンス改善プログラムに参加するには、接続サーバ をインストールする管理者が接続サーバインストール ウィザードを実行しているときに選択するか、インストール後に Horizon Administrator でオプションを設定します。

表 1-2. カスタム エクスペリエンス改善プログラムのために収集されたクライアント データ

説明	フィールド名	このフィールドは匿名になりますか？	値の例
アプリケーションを開発する企業	<クライアントベンダー>	いいえ	VMware
製品名	<クライアント製品>	いいえ	VMware Horizon HTML Access
クライアント製品のバージョン	<クライアントバージョン>	いいえ	4.8.0-<build_number>
クライアントのバイナリ アーキテクチャ	<クライアントアーキテクチャ>	いいえ	以下のような値があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ブラウザ</li> <li>■ arm</li> </ul>
ブラウザのネイティブ アーキテクチャ	<ブラウザアーキテクチャ>	いいえ	以下のような値があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Win32</li> <li>■ Win64</li> <li>■ MacIntel</li> <li>■ iPad</li> <li>■ Linux armv81 (Android Chrome サポート)</li> </ul>
ブラウザ ユーザー エージェント文字列	<ブラウザユーザーエージェント>	いいえ	以下のような値があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Mozilla/5.0 (Windows NT 6.1; WOW64)</li> <li>■ AppleWebKit/703.00 (KHTML, Gecko など)</li> <li>■ Chrome/3.0.1750</li> <li>■ Safari/703.00</li> <li>■ Edge/13.10586</li> </ul>
ブラウザの内部バージョン文字列	<ブラウザバージョン>	いいえ	以下のような値があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 7.0.3 (Safari 用)</li> <li>■ 44.0 (Firefox 用)</li> <li>■ 13.10586 (Edge 用)</li> </ul>

表 1-2. カスタマ エクスペリエンス改善プログラムのために収集されたクライアント データ (続き)

説明	フィールド名	このフィールド は匿名になりま すか？	値の例
ブラウザのコア実装	<ブラウザ-コア>	いいえ	以下のような値があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Chrome</li> <li>■ Safari</li> <li>■ Firefox</li> <li>■ Internet Explorer</li> <li>■ Edge</li> </ul>
ブラウザがハンドヘルド デバイスで実行して いるかどうか	<ブラウザ-は-ハンドヘルド>	いいえ	true

# エンド ユーザー用に HTML Access を構成

## 2

HTML Access の URL を入力する時にエンド ユーザーに表示される Web ページの外観を変更できます。イメージ品質を制御するグループ ポリシ、使用されるポート、および他の項目も設定することができます。

この章では次のトピックについて説明します。

- エンド ユーザー用の VMware Horizon Web ポータル ページの構成
- URI を使用した HTML Access Web Client の構成
- HTML Access グループ ポリシー設定

## エンド ユーザー用の VMware Horizon Web ポータル ページの構成

この Web ページを構成して、Horizon Client ダウンロード用のアイコン、または HTML Access 経由でリモート デスクトップに接続するアイコンの表示と非表示を切り替えることができます。このページの他のリンクも構成できます。

デフォルトでは、Web ポータル ページに、ネイティブ Horizon Client のダウンロードおよびインストールのアイコンと、HTML Access 経由で接続するためのアイコンの両方が表示されます。使用されるダウンロード リンクは、**portal-links-html-access.properties** ファイルで定義されているデフォルト値で決定されます。

ただし、社内の Web サーバへのリンクを表示したり、特定のクライアント バージョンをサーバで使用できるようにした方がよい場合もあります。**portal-links-html-access.properties** ファイルの内容を変更して、別のダウンロード URL を示すようにポータル ページを再構成できます。このファイルが使用できない、または空白であり、**oslinks.properties** ファイルが存在する場合は、**oslinks.properties** ファイルを使用して、インストーラ ファイルのリンクの値が決定されます。

**oslinks.properties** ファイルは、`<installation-directory>\VMware\VMware View\Server\broker\webapps\portal\WEB-INF` フォルダにインストールされます。HTML Access セッションでこのファイルが見つからない場合、このダウンロード リンクによって、ユーザーはデフォルトで <https://www.vmware.com/go/viewclients> にアクセスします。このファイルには、次のデフォルト値が含まれます。

```
link.download=https://www.vmware.com/go/viewclients
# download Links for particular platforms
link.win32=https://www.vmware.com/go/viewclients#win32
link.win64=https://www.vmware.com/go/viewclients#win64
link.linux32=https://www.vmware.com/go/viewclients#linux32
link.linux64=https://www.vmware.com/go/viewclients#linux64
link.mac=https://www.vmware.com/go/viewclients#mac
link.ios=https://itunes.apple.com/us/app/vmware-view-for-ipad/id417993697
```

```
link.android=https://play.google.com/store/apps/details?id=com.vmware.view.client.android
link.chromeos=https://chrome.google.com/webstore/detail/vmware-horizonclient/
pckbpdplfajmgaip1jfamclkinbjdnma
link.winmobile=https://www.microsoft.com/en-us/store/p/vmware-horizon-client/9nblggh51p19
```

特定のクライアント オペレーティング システム用のインストーラ リンクは、portal-links-html-access.properties または oslinks.properties ファイルのいずれかで作成できます。たとえば、Mac OS X システムからポータル ページを参照すると、ネイティブ Mac OS X インストーラのリンクが表示されます。Windows や Linux クライアントの場合、32 ビット版インストーラのリンクと 64 ビット版インストーラのリンクを個別に作成できます。

**重要** 接続サーバ 5.x 以前のリリースからのアップグレードで HTML Access コンポーネントをインストールせずに、Horizon Client ダウンロード用の社内サーバを指定するポータル ページを編集している場合、これらのカスタマイズは View 接続サーバ 6.0 以降をインストールすると非表示になることがあります。Horizon 6 以降では、HTML Access コンポーネントが接続サーバのアップグレード時に自動的にインストールされます。

Horizon 7 5.x 用に別途 HTML Access コンポーネントをインストールした場合は、Web ページに行ったカスタマイズはすべて保持されています。HTML Access コンポーネントをインストールしなかった場合、カスタマイズはすべて非表示になります。以前のリリース用のカスタマイズは、使用されなくなった **portal-links.properties** ファイルに入っています。

## 手順

- 1 接続サーバ ホストで、テキスト エディタを使用して **portal-links-html-access.properties** ファイルを開きます。

このファイルの場所は **<CommonAppDataFolder>\VMware\VDM\portal\portal-links-html-access.properties** です。Windows Server 2008 オペレーティング システムでは、<CommonAppDataFolder> ディレクトリは **C:\ProgramData** です。Windows Explorer で **C:\ProgramData** フォルダを表示するには、[フォルダ オプション] ダイアログ ボックスを使用して非表示のフォルダを表示する必要があります。

**portal-links-html-access.properties** ファイルが存在せず、**oslinks.properties** ファイルが存在する場合は、<<installation-directory>>\VMware\VMware View\Server\broker\webapps\portal\WEB-INF\oslinks.properties ファイルを開いて、特定のインストーラ ファイルをダウンロードするために使用する URL を変更します。

**注意** **portal-links.properties** ファイル (**portal-links-html-access.properties** ファイルと同じ **<CommonAppDataFolder>\VMware\VDM\portal\** ディレクトリにある) に入っている Horizon 7 5.x 以前用のカスタマイズです。

## 2 構成プロパティを編集し、適切に設定します。

デフォルトでは、インストーラ アイコンと HTML Access アイコンの両方が有効で、リンクは VMware Web サイトのクライアント ダウンロード ページを参照します。アイコンを無効にする (Web ページからアイコンを削除する) には、プロパティを **false** に設定します。

**注意** `oslinks.properties` ファイルは、特定のインストーラ ファイルへのリンクの構成にのみ使用できます。下記に表示される他のオプションはサポートされません。

オプション	プロパティ設定
HTML Access を無効にする	<b><code>enable.webclient=false</code></b> このオプションが <code>false</code> に設定されているにもかかわらず <b><code>enable.download</code></b> オプションが <code>true</code> に設定されていると、ユーザーは Web ページでネイティブの Horizon Client インストーラのダウンロードを求められます。両オプションが <code>false</code> に設定されていると、次のメッセージが表示されます。「この接続サーバへのアクセスについての説明は、ローカルの管理者にお問い合わせください。」
Horizon Client のダウンロードを無効にする	<b><code>enable.download=false</code></b> このオプションが <code>false</code> に設定されているにもかかわらず <b><code>enable.webclient</code></b> オプションが <code>true</code> に設定されていると、ユーザーに HTML Access のログイン Web ページが表示されます。両オプションが <code>false</code> に設定されていると、次のメッセージが表示されます。「この接続サーバへのアクセスについての説明は、ローカルの管理者にお問い合わせください。」
Horizon Client をダウンロードするための Web ページの URL を変更します	<b><code>link.download=https://&lt;url-of-web-server&gt;</code></b> 独自の Web ページを作成する予定がある場合は、このプロパティを使用します。



オプション	プロパティ設定
特定のインストーラのリンクを作成する	<p>以下に示すのは完全 URL の例ですが、インストーラ ファイルが次の手順の説明のように接続サーバの <code>C:\Program Files\VMware\VMware View\Server\broker\webapps\</code> ディレクトリの <code>downloads</code> ディレクトリにある場合は、相対 URL を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ インストーラをダウンロードするための一般的なリンク：</li> </ul>
	<pre>link.download=https://&lt;server&gt;/downloads</pre>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 32 ビット Windows インストーラ：</li> </ul> <pre>link.win32=https://&lt;server&gt;/downloads/VMware-Horizon-Client-x86-&lt;build#&gt;.exe</pre>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 64 ビット Windows インストーラ：</li> </ul> <pre>link.win64=https://&lt;server&gt;/downloads/VMware-Horizon-Client-x86_64-&lt;build#&gt;.exe</pre>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Windows Phone インストーラ：</li> </ul> <pre>link.winmobile=https://&lt;server&gt;/downloads/VMware-Horizon-Client-&lt;build#&gt;.appx</pre>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 32 ビット Linux インストーラ：</li> </ul> <pre>link.linux32=https://&lt;server&gt;/downloads/VMware-Horizon-Client-&lt;build#&gt;.x86.bundle</pre>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 64 ビット Linux インストーラ：</li> </ul> <pre>link.linux64=https://&lt;server&gt;/downloads/VMware-Horizon-Client-&lt;build#&gt;.x64.bundle</pre>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Mac OS X インストーラ：</li> </ul> <pre>link.mac=https://&lt;server&gt;/downloads/VMware-Horizon-Client-&lt;build#&gt;.dmg</pre>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ iOS インストーラ：</li> </ul> <pre>link.ios=https://&lt;server&gt;/downloads/VMware-Horizon-Client-iPhoneOS-&lt;build#&gt;.ipa</pre>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Android インストーラ：</li> </ul> <pre>link.android=https://&lt;server&gt;/downloads/VMware-Horizon-Client-AndroidOS-&lt;build#&gt;.apk</pre>

オプション	プロパティ設定
	<ul style="list-style-type: none"> <li>Chrome OS インストーラ :</li> </ul>
	<pre>link.chromeos=https://&lt;server&gt;/downloads/VMware-Horizon-Client-ChromeOS-&lt;build#&gt;.apk</pre>
ログイン ページの [ヘルプ] リンクの URL を変更します。	<pre>link.help</pre> <p>デフォルトでは、このリンクは VMware の Web サイトにホストされているヘルプシステムを参照します。[ヘルプ] リンクが、ログイン ページの下部に表示されます。</p>

- 3 ユーザーに VMware Web サイト以外の場所からインストーラをダウンロードさせるには、インストーラ ファイルを置くことになる HTTP サーバにインストーラ ファイルを配置します。

この場所は、前の手順の **portal-links-html-access.properties** ファイルまたは **oslinks.properties** ファイルで指定した URL に対応している必要があります。たとえば、接続サーバホストの **downloads** ディレクトリにファイルを配置するには、以下のパスを使用します。

```
C:\Program Files\VMware\VMware View\Server\broker\webapps\downloads
```

これで、インストーラ ファイルに対するリンクで **/downloads/<client-installer-file-name>** というフォーマットの相対 URL を使用できます。

- 4 Horizon Web コンポーネント サービスを再起動します。

## URI を使用した HTML Access Web Client の構成

Uniform Resource Identifier (URI) を使用して作成できるリンク付きの Web ページや電子メールでは、エンドユーザーがクリックすると HTML Access Web client が起動したり、View 接続サーバに接続したり、特定の構成オプションを持つ特定のデスクトップまたはアプリケーションを起動したりできます。

エンドユーザー用の Web または電子メールのリンクを作成することで、リモート デスクトップまたはアプリケーションへの接続プロセスを簡素化できます。部分的または以下のすべての情報を提供する URI を作成することでこれらのリンクを作成すれば、エンドユーザーは入力する必要がありません。

- View 接続サーバのアドレス
- View 接続サーバのポート番号
- Active Directory ユーザー名
- Active Directory ユーザー名と異なる場合、RADIUS または RSA SecurID ユーザー名
- ドメイン名
- デスクトップまたはアプリケーション表示名
- セッションの参照、リセット、ログオフ、開始を含むアクション

## HTML Access の URI を作成するための構文

構文には、サーバを指定するためのパス部分、また必要に応じて、ユーザー、デスクトップまたはアプリケーション、およびアクションまたは構成オプションを指定するためのクエリが含まれます。

## URI 仕様

以下の構文を使用して HTML Access Web Client を起動するための URI を作成します。

```
https://<authority-part>[/?<query-part>]
```

### <authority-part>

サーバ アドレス、および必要に応じて非デフォルト ポート番号を指定します。サーバ名は、DNS 構文に一致する必要があります。

ポート番号を指定するには、以下の構文を使用します：

```
<server-address>:<port-number>
```

### <query-part>

使用するための構成オプション、または実行するアクションを指定します。クエリは大文字と小文字の区別がありません。複数のクエリを使用するには、クエリの間アンパサンド (&) を使用します。クエリが違いに競合する場合、リストの最後のクエリが使用されます。次の構文を使用します：

```
<query1>=<value1>[&<query2>=<value2>...]
```

query-part を作成するときは、以下のガイドラインに注意してください。

- サポートされているクエリを 1 つも使用しない場合は、デフォルトの VMware Horizon Web ポータル ページが表示されます。
- クエリ部分では、一部の特殊文字がサポートされていません。それらの文字には URL エンコーディング形式を使用する必要があります。番号記号 (#) には **%23**、パーセント記号 (%) には **%25**、アンパサンド (&) には **%26**、アットマーク (@) には **%40**、バックスラッシュ (\) には **%5C** を使用します。

URL エンコーディングの詳細については、

[http://www.w3schools.com/tags/ref\\_urlencode.asp](http://www.w3schools.com/tags/ref_urlencode.asp) を参照してください。

- クエリ部分で、非 ASCII 文字は UTF-8 [STD63] に基づいて最初にエンコードされる必要があります、次に対応する UTF-8 シーケンスの各オクテットは、URI 文字として表されるパーセントでエンコードされる必要があります。

ASCII 文字のエンコードについての詳細は、<http://www.utf8-chartable.de/> の URL エンコーディング資料を参照してください。

## サポートされるクエリ

このトピックでは、HTML Access Web client でサポートされるクエリを示します。デスクトップ クライアントやモバイル クライアントなどの複数のクライアント タイプ用に URI を作成する場合は、クライアント システムの各タイプの『VMware Horizon Client の使用』を参照してください。

### 操作

表 2-1. アクション クエリで利用できる値

値	説明
<b>browse</b>	指定したサーバにホストされている使用可能なデスクトップおよびアプリケーションのリストを表示します。このアクションを使用しているときに、デスクトップまたはアプリケーションを指定する必要はありません。
<b>start-session</b>	指定したデスクトップまたはアプリケーションを起動します。アクション クエリが提供されず、デスクトップまたはアプリケーション名が提供されなければ、 <b>start-session</b> がデフォルト アクションとなります。
<b>reset</b>	指定したデスクトップをシャットダウンして再起動します。保存されてないデータは失われます。リモート デスクトップのリセットは、物理 PC のリセット ボタンを押すことに相当します。このアクションは、アプリケーションに有効ではありません。
<b>logoff</b>	リモート デスクトップのゲスト OS からユーザーをログオフします。このアクションは、アプリケーションに有効ではありません。
<b>restart</b>	再起動操作の要求をユーザーが確認したら、プライマリ デスクトップをシャットダウンして再起動します。このアクションは、アプリケーションに有効ではありません。

### applicationId

アプリケーション表示名。この表示名は、アプリケーション プールの作成時に Horizon Administrator で指定した名前です。表示名にスペースが含まれている場合、ブラウザは **%20** を使用してスペースを表します。

### args

リモート アプリケーションの起動に追加するコマンドライン引数を指定します。**args=<値>** の構文を使用します。<値> には文字列を指定します。次の文字についてはパーセント エンコーディングを使用します。

- コロン (:) には、**%3A** を使用します
- バック スラッシュ (\) には、**%5C** を使用します
- スペース ( ) には、**%20** を使用します
- 二重引用符 (") には、**%22** を使用します

たとえば、Notepad++ アプリケーションに "My new file.txt" というファイル名を指定するには、**%22My%20new%20file.txt%22** を使用します。

### desktopId

デスクトップ表示名。この表示名は、デスクトップ プールの作成時に View Administrator で指定した名前です。表示名にスペースが含まれている場合、ブラウザは **%20** を使用してスペースを表します。

<b>domainName</b>	リモート デスクトップやアプリケーションに接続しているユーザーに関連付けられている NETBIOS ドメイン名たとえば、 <b>mycompany.com</b> ではなく <b>mycompany</b> を使用してください。
<b>tokenUserName</b>	RSA または RADIUS ユーザー名。RSA または RADIUS ユーザー名が Active Directory ユーザー名と異なる場合に限りこのクエリを使用します。このクエリを指定せず、RSA または RADIUS 認証が必要である場合、Windows ユーザー名が使用されます。
<b>userName</b>	<p>リモート デスクトップまたはアプリケーションに接続している Active Directory ユーザー名は、次のいずれかの形式で指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <code>&lt;userName&gt;</code></li> <li>■ <code>&lt;domainName%5CuserName&gt;</code></li> <li>■ <code>&lt;userName@domainName&gt;</code> 形式のユーザー プリンシパル名 (UPN)</li> </ul>
<b>unauthenticatedAccessEnabled</b>	このオプションが <b>true</b> に設定されている場合、非認証アクセス機能は、デフォルトで有効になります。HTML Access Web client が起動し、匿名ユーザー アカウントが表示されます。構文の例は、 <b>unauthenticatedAccessEnabled=true</b> です。
<b>unauthenticatedAccessAccount</b>	<p>非認証アクセス機能が有効な場合、このアカウントを使用するように設定します。非認証アクセス機能が無効な場合、このクエリは無視されます。<b>anonymous1</b> ユーザー アカウントを使用する場合、<b>unauthenticatedAccessAccount=anonymous1</b> のように構文を指定します。</p>

## URI の例

URI でハイパーテキスト リンクまたはボタンを作成し、これらのリンクを E メールまたは Web ページに含めることができます。エンド ユーザーはこれらのリンクをクリックして、たとえば、指定した起動オプションで特定のリモート デスクトップやアプリケーションを開くことができます。

### URI 構文の例

各 URI の例に続いて、URI リンクをクリック後にエンド ユーザーに表示される事柄について説明します。クエリは大文字と小文字の区別がありません。たとえば、**domainName** または **domainname** を使用できます。

1

```
https://horizon.mycompany.com/?domainName=finance&userName=fred
```

HTML Access Web client が起動し、**horizon.mycompany.com** サーバに接続します。ログイン ボックスで、[ユーザー名] テキスト ボックスに [fred] という名前が入力され、[ドメイン] テキスト ボックスに [finance] が入力されます。ユーザーはパスワードを入力する必要があるだけです。

2 `https://horizon.mycompany.com/?userName=finance%5Cfred`

HTML Access Web client が起動し、**horizon.mycompany.com** サーバに接続します。ログイン ボックスで、[ユーザー名] テキスト ボックスに [finance\fred] という名前が入力されます。ユーザーはパスワードを入力する必要があるだけです。

3 `https://horizon.mycompany.com/?userName=fred@finance`

HTML Access Web client が起動し、**horizon.mycompany.com** サーバに接続します。ログイン ボックスで、[ユーザー名] テキスト ボックスに [fred@finance] という名前が入力されます。ユーザーはパスワードを入力する必要があるだけです。

4 `https://horizon.mycompany.com/?desktopId=Primary%20Desktop&action=start-session`

HTML Access Web client が起動し、**horizon.mycompany.com** サーバに接続します。ログイン ボックスが表示され、ユーザー名、ドメイン名、およびパスワードが求められます。ログインに成功すると、クライアントはディスプレイ名が [Primary Desktop (プライマリ デスクトップ)] として表示されるデスクトップに接続し、ユーザーはゲスト OS にログインされます。

5 `https://horizon.mycompany.com/?applicationId=Notepad&action=start-session`

HTML Access Web client が起動し、**horizon.mycompany.com** サーバに接続します。ログイン ボックスが表示され、ユーザー名、ドメイン名、およびパスワードが求められます。ログインが成功すると、ノートパッド アプリケーションが起動されます。

6 `https://horizon.mycompany.com:7555/?desktopId=Primary%20Desktop`

この URI は前の例と同じ効果がありますが、接続サーバに 7555 の非デフォルト ポートを使用するところが異なります (デフォルトのポートは 443 です)。デスクトップ ID が提供されるので、デスクトップは **start-session** アクションが URI に含まれていない場合であっても起動されます。

7 `https://horizon.mycompany.com/?applicationId=Primary%20Application&desktopId=Primary%20Desktop`

この URI は、アプリケーションとデスクトップの両方を指定します。アプリケーションとデスクトップの両方を指定すると、デスクトップだけが起動されます。

8 `https://horizon.mycompany.com/?desktopId=Primary%20Desktop&action=reset`

HTML Access Web Client が起動され、**horizon.mycompany.com** サーバに接続します。ログイン ボックスが表示され、ユーザー名、ドメイン名、およびパスワードが求められます。ログインに成功すると、クライアントによって、プライマリ デスクトップのリセット操作の確認を求めるダイアログ ボックスが表示されます。

---

**注意** このアクションは、Horizon 管理者がエンド ユーザーにマシンのリセットを許可している場合にのみ使用できます。

---

9

```
https://horizon.mycompany.com/?My%20Notepad++?args=%22My%20new%20file.txt%22
```

Notepad++ をサーバ **horizon.mycompany.com** で開いて、引数 **My new file.txt** をアプリケーションの起動コマンドに渡します。ファイル名にはスペース文字が含まれるため、二重引用符で囲まれています。

10

```
https://horizon.mycompany.com/?Notepad++%2012?args=a.txt%20b.txt
```

Notepad++ 12 をサーバ **horizon.mycompany.com** で開いて、引数 **a.txt b.txt** をアプリケーションの起動コマンドに渡します。引数は二重引用符で囲まれていないため、スペース文字によってファイル名が分割され、2 つのファイルが Notepad++ で別々に開きます。

**注意** アプリケーションによって、コマンドラインの引数を使用する方法が異なる場合があります。たとえば、引数 **a.txt b.txt** をワードパッドに渡すと、ワードパッドは **a.txt** の 1 ファイルのみを開きます。

11

```
https://horizon.mycompany.com/?desktopId=Primary%20Desktop&action=restart
```

HTML Access Web client が起動し、**horizon.mycompany.com** サーバに接続します。ログイン ボックスが表示され、ユーザー名、ドメイン名、およびパスワードが求められます。ログインに成功すると、クライアントによって、プライマリ デスクトップの再起動操作の確認を求めるダイアログ ボックスが表示されます。

**注意** このアクションは、Horizon 管理者がエンド ユーザーにマシンの再起動を許可している場合にのみ使用できます。

12

```
https://horizon.mycompany.com/?unauthenticatedAccessEnabled=true&unauthenticatedAccessAccount=anonymous_user1
```

HTML Access Web client が起動し、**anonymous\_user1** アカウントを使用して、**horizon.mycompany.com** サーバに接続します。

## HTML コードの例

URI を使用してハイパー リンクおよびボタンを作成し、E メールまたは Web ページに含めることができます。以下の例は、[Test Link (テスト リンク)] というハイパー リンクおよび [TestButton] というボタンのコードを記述するために最初の URI の例から URI を使用する方法を示します。

```
<html>
<body>

<a href="https://horizon.mycompany.com/?domainName=finance&userName=fred">Test Link</a><br>

<form><input type="button" value="TestButton" onClick="window.location.href=
'https://horizon.mycompany.com/?domainName=finance&userName=fred'"></form> <br>

</body>
</html>
```

## HTML Access グループ ポリシー設定

HTML Access は、VMware Blast プロトコルを使用します。VMware Blast プロトコルのグループ ポリシーの構成により、HTML Access のグループ ポリシーを構成します。

詳細については、『Horizon 7 でのリモート デスクトップ機能の構成』ドキュメントの「デスクトップ プールとアプリケーション プールのポリシーの設定」と「VMware Blast ポリシー設定」を参照してください。



# リモート デスクトップまたはアプリケーションの使用

クライアントには、ナビゲーション サイドバーとツールバーが用意されているので、リモート デスクトップやアプリケーションから簡単に切断したり、ボタンをクリックして Ctrl + Alt + Delete キーの組み合わせと同じコマンドを送信したりすることができます。

この章では次のトピックについて説明します。

- 機能サポート一覧
- 国際化
- リモート デスクトップまたはアプリケーションへの接続
- Workspace ONE モードでのサーバへの接続
- 公開アプリケーションへの接続に非認証のアクセスを使用する
- ショートカット キーの組み合わせ
- 国際キーボード
- スクリーン解像度
- H.264 デコードの許可
- タイム ゾーンの設定
- サイドバーの使用
- 複数のモニターの使用
- DPI 同期の使用
- 音声
- テキストのコピーおよび貼り付け
- クライアントとリモート デスクトップ間でのファイルの転送
- Web カメラとマイクでリアルタイム オーディオ ビデオ機能を使用
- セッション共同作業機能の使用
- ログオフまたは切断
- リモート デスクトップまたは公開アプリケーションのリセット
- リモート デスクトップの再起動

## 機能サポート一覧

ブラウザベースの HTML Access クライアントからリモート デスクトップやアプリケーションにアクセスする場合、一部の機能は使用できません。

### シングルユーザーの仮想マシン デスクトップの機能サポート

表 3-1. HTML Access を通してサポートされる機能

機能	Windows 7 デスクトップ	Windows 8.x デスクトップ	Windows 10 デスクトップ	Windows Server 2008 R2 デスク トップ	Windows Server 2012 R2 デスクトッ プ	Windows Server 2016 デスクトップ
RSA SecurID または RADIUS	X	X	X	X	X	X
シングル サインオン	X	X	X	X	X	X
RDP 表示プロトコル						
PCoIP 表示プロトコル						
VMware Blast 表示プロトコル	X	X	X	X	X	X
USB リダイレクト						
リアルタイム オーディオビデオ (RTAV)	X	X	X	X	X	X
Wyse MMR						
Windows Media MMR						
仮想印刷						
ロケーション ベースの印刷	X	X	X	X	X	X
スマート カード						
複数のモニター	X	X	X	X	X	X

上記の機能の詳細および制限事項については、『Horizon 7 アーキテクチャ プランニング ガイド』を参照してください。

### RDS ホストでのセッションベースのデスクトップおよびホスト型アプリケーションの機能サポート

RDS ホストは、Windows リモート デスクトップ サービスと View Agent がインストールされたサーバ コンピュータです。RDS ホスト上のデスクトップおよびアプリケーション セッションは複数のユーザーによる同時利用が可能です。RDS ホストには物理マシンまたは仮想マシンのいずれかを使用できます。

**注意** 次の表には、HTML Access を使用する場合に RDS ホストから利用可能な機能の行だけが含まれます。Horizon Client for Windows など、ネイティブでインストールされた Horizon Client を使用している場合は、追加の機能が使用できます。

表 3-2. View Agent 6.1.1 以降、または Horizon Agent 7.0 以降がインストールされた RDS ホストに対して HTML Access でサポートされている機能

機能	Windows Server 2008 R2 RDS ホスト	Windows Server 2012 または 2012 R2 RDS ホスト	Windows Server 2016
RSA SecurID または RADIUS	X	X	Horizon Agent 7.0.2 以降
シングル サインオン	X	X	Horizon Agent 7.0.2 以降
VMware Blast 表示プロトコル	X	X	Horizon Agent 7.0.2 以降
ロケーション ベースの印刷	X (仮想マシン専用)	X (仮想マシン専用)	Horizon Agent 7.0.2 以降 (仮想マシン専用)
リアルタイム オーディオビデオ (RTAV)	Horizon Agent 7.0.2 以降	Horizon Agent 7.0.2 以降	Horizon Agent 7.0.3 以降
複数のモニター (セッションページのデスクトップのみ)	X	X	X

各ゲスト OS のどのエディションがサポートされるか、またはどのサービス パックがサポートされるかについての詳細は、『View のインストール』ドキュメントの「Horizon Agent でサポートされているオペレーティングシステム」を参照してください。

## 国際化

ユーザー インターフェイスとドキュメントは、英語、日本語、フランス語、ドイツ語、簡体字中国語、繁体字中国語、韓国語、およびスペイン語で利用可能です。

クライアント システム、ブラウザ、およびリモート デスクトップで使用する必要がある言語パックについての詳細は、『[国際キーボード](#)』を参照してください。

## リモート デスクトップまたはアプリケーションへの接続

使用を許可されているリモート デスクトップおよびアプリケーションに接続するには、Active Directory の認証情報を使用します。

### 開始する前に

- Active Directory ユーザー名とパスワード、RSA SecurID ユーザー名とパスコード、RADIUS 認証ユーザー名とパスコードなどのログイン認証情報を取得します。
- ログイン用の NETBIOS ドメイン名を取得します。例として、**mycompany.com** ではなく **mycompany** を使用してください。

### 手順

- 1 ブラウザを開き、接続サーバインスタンスの URL を入力します。

URL では **https** を使用し、**https://horizon.company.com** のように完全修飾ドメイン名を使用します。

接続サーバとの接続には常に SSL を使用します。SSL 接続のデフォルト ポートは 443 です。接続サーバがデフォルト ポートを使用するように構成されていない場合、次の例の形式を使用します。

**horizon.company.com:1443**。

VMware Horizon Web ポータルが表示されます。デフォルトでは、このページに、ネイティブ Horizon Client のダウンロードおよびインストールのアイコンと、HTML Access 経由で接続するためのアイコンの両方が表示されます。

- 2 (オプション) [この画面をスキップして HTML Access を常に使用するには、これを選択してください。] チェック ボックスを選択します。

選択内容は、現在使用しているブラウザのローカル ストレージに格納されます。次回、同じブラウザ タイプと同じクライアント マシンを使用して接続サーバ インスタンスの URL を入力すると、すぐにログイン画面が表示されます。同じクライアント マシンで別のブラウザ タイプを使用する場合、または別のクライアント マシンで同じタイプのブラウザを使用すると、VMware Horizon Web ポータルが表示されます。VMware Horizon Web ポータルを表示するには、ブラウザのキャッシュをクリアします。

- 3 [VMware Horizon HTML Access] アイコンをクリックします。

- 4 [ログイン] ダイアログ ボックスで RSA SecurID の認証情報または RADIUS の認証証明書の入力を求められた場合、ユーザー名とパスコードを入力して [ログイン] をクリックします。

パスコードには、PIN とトークンで生成された番号が含まれる場合があります。

- 5 再度、RSA SecurID 認証情報または RADIUS 認証情報を入力するダイアログが表示されたら、トークンで次に生成された番号を入力します。

PIN および、過去に生成され、入力したものと同一番号は入力しないでください。必要に応じて、新しい番号が生成されるのを待ちます。

この手順は、最初のパスコードの入力をミスした、または RSA サーバの設定が変更された時のみ、必要になります。

- 6 [ログイン] ダイアログ ボックスで、ログイン認証情報を入力します。

- a [ユーザー名] テキスト ボックスに、<username>、<domain\username>、または <username@domain> のいずれかの形式で有効な Active Directory ユーザー名を入力します。

[ドメイン] テキストボックスが無効になっている場合、<domain\username> または <username@domain> のいずれかの形式を使用する必要があります。

- b パスワードを入力してください。

- c (オプション) [ドメイン] フィールドが有効で、ドメイン名が正しく入力されていない場合には、このフィールドから選択します。

---

**注意** ログイン プロセスを中断するには、ログイン プロセスが完了する前に [キャンセル] をクリックします。

---

- 7 (オプション) リモート デスクトップまたはアプリケーションで使用されるタイムゾーンを手動で設定する必要がある場合は、デスクトップおよびアプリケーション選択画面の右上隅にある [設定] ツールバー ボタンをクリックします。[タイム ゾーンを自動的に設定する] オプションをオフにして、ドロップダウン メニューからタイム ゾーンを 1 つ選択します。[「タイム ゾーンの設定」](#) を参照してください。

- 8 (オプション) デスクトップおよびアプリケーションの選択画面で、アクセスする項目を選択する前に、お気に入りとしてリモート デスクトップやアプリケーションをマークするには、デスクトップやアプリケーションアイコンの中にある灰色の星をクリックします。

星のアイコンが灰色から黄色に変わります。次回ログインするときに、ブラウザ ウィンドウの右上部分にある星のアイコンをクリックして、お気に入りのみを表示できます。

- 9 アクセスするリモート デスクトップまたはアプリケーションのアイコンをクリックします。

リモート デスクトップまたはアプリケーションがブラウザに表示されます。ナビゲーション サイドバーも利用できます。ブラウザ ウィンドウの左側にあるタブをクリックして、サイドバーを表示できます。サイドバーを使用して、他のリモート デスクトップやアプリケーションにアクセスしたり、[設定] ウィンドウを表示したり、テキストをコピーおよび貼り付けたり、その他の操作を実行したりできます。

#### 次に進む前に

デスクトップやアプリケーションに接続した後にすぐ切断され、リンクをクリックしてセキュリティ証明書を受け入れるよう求めるプロンプトが表示される場合、ユーザーはその証明書を信頼するかどうかを選択できます。[「自己署名付ルート証明書の信頼」](#)を参照してください。

## 自己署名付ルート証明書の信頼

リモート デスクトップまたはアプリケーションに初めて接続したときに、リモート マシンで使用する自己署名証明書を受け入れるように指示するプロンプトが表示される場合があります。リモート デスクトップまたは公開アプリケーションに接続する前に、証明書を信頼する必要があります。

ほとんどのブラウザでは、自己署名証明書を永続的に信頼するオプションを利用できます。証明書を永続的に信頼する場合は、ブラウザを再起動するときに毎回証明書を確認する必要があります。Safari ブラウザを使用している場合、接続を確立するにはセキュリティ証明書を永続的に信頼する必要があります。

#### 手順

- 1 信頼されていない証明書の警告や、接続がプライベートではないという警告がブラウザに表示される場合、証明書を調べて、ユーザーの企業によって使用されている証明書と一致しているか確認します。

システム管理者への連絡が必要になる場合があります。たとえば、Chrome では、次の手順を使用します。

- a アドレス バーのロック アイコンをクリックします。
- b [証明書情報] リンクをクリックします。
- c 証明書がユーザーの企業で使用されている証明書と一致しているか確認します。

システム管理者への連絡が必要になる場合があります。

## 2 セキュリティ証明書を受け入れます。

証明書を受け入れるあるいは常に信頼するためのプロンプトは各ブラウザで異なります。たとえば、Chrome ブラウザでブラウザ ページの [詳細] リンクをクリックして、[<server-name> にアクセスする (安全ではありません)] をクリックすることができます。

Safari ブラウザでは、次の手順で証明書を永続的に信頼します。

- a 信頼されない証明書のダイアログ ボックスが表示されたら、[証明書の表示] ボタンをクリックします。
- b [常に信頼] チェック ボックスを選択し、[続ける] をクリックします。
- c 入力を求められたらパスワードを入力し、[設定の更新] をクリックします。

リモート デスクトップまたは公開アプリケーションが起動します。

## Workspace ONE モードでのサーバへの接続

Horizon 7 バージョン 7.2 以降では、Horizon 管理者が接続サーバ インスタンスで Workspace ONE モードを有効にできます。

Workspace ONE モードが有効な場合、Workspace ONE Web ポータルを介してサーバに接続できます。HTML Access 経由でサーバに接続しようとする、Workspace ONE Web ポータルにリダイレクトされます。Workspace ONE Web ポータル経由でサーバに接続すると、Workspace ONE Web ポータル経由でのみリモート デスクトップと公開アプリケーションを開始できます。

Workspace ONE モードが有効になっている場合、サイドバーに一部の資格が表示されません。現在実行中のデスクトップや公開アプリケーションのみが表示されます。

Workspace ONE モードを有効にすると、次の問題が発生することがあります。

- HTML Access を介してサーバに接続できません。サーバに接続できないか、サーバが別のアプリケーションまたはサーバのログイン認証情報を想定していることを示すメッセージが表示される場合があります。
- Workspace ONE Web ポータル経由でリモート デスクトップまたは公開アプリケーションを開始すると、HTML Access でリモート デスクトップと公開アプリケーションを表示または開始できません。

## 公開アプリケーションへの接続に非認証のアクセスを使用する

Horizon 管理者は、非認証アクセス機能を使用して、非認証アクセス ユーザーを作成し、これらのユーザーに接続サーバ インスタンスにある公開アプリケーションに対する資格を付与できます。非認証アクセスのユーザーは、サーバに匿名でログインして、公開アプリケーションに接続することができます。

開始する前に

- 管理タスクの実行については、[「接続サーバとセキュリティ サーバの準備」](#)で説明しています。
- 接続サーバ インスタンスで非認証アクセス ユーザーを設定します。詳細については、『Horizon 7 の管理』の「公開アプリケーションでの非認証アクセスの提供」を参照してください。

## 手順

- 1 公開アプリケーションに非認証でアクセス可能な接続サーバ インスタンスに接続するには、ブラウザを開き、以下のいずれかの URI 構文を使用します。

- `https://<authority-part>?unauthenticatedAccessEnabled=true`
- `https://<authority-part>?unauthenticatedAccessEnabled=true&unauthenticatedAccessAccount=<anonymous_account>`

<authority-part> に、サーバアドレスを指定します。必要に応じて、デフォルト以外のポート番号も指定できます。サーバ名は DNS 構文に一致する必要があります。ポート番号を指定するには、<server-address:port-number> を使用します。<anonymous\_account> は、匿名ログイン用に作成される非認証アクセス ユーザー アカウントです。

接続サーバとの接続には常に TLS を使用します。TLS 接続のデフォルト ポートは 443 です。接続サーバがデフォルト ポートを使用するように構成されていない場合、次の例の形式を使用します。

**horizon.company.com:1443。**

- 2 (オプション) **unauthenticatedAccessAccount** クエリを指定していない場合には、必要に応じて [ユーザー アカウント] ドロップダウン メニューから非認証アクセス ユーザー アカウントを選択し、[送信] をクリックします。

使用可能な非認証アクセス ユーザー アカウントが 1 つしかない場合、このユーザー アカウントがデフォルトで選択されます。

アプリケーション選択ウィンドウが表示されます。

- 3 アクセスする公開アプリケーションのアイコンをクリックします。

公開アプリケーションがブラウザに表示されます。ナビゲーション サイドバーも利用できます。ブラウザの左側にあるタブをクリックして、サイドバーを表示できます。サイドバーを使用すると、他の公開アプリケーションへのアクセス、[設定] ウィンドウの表示、テキストのコピー アンド ペーストなどの操作の実行が可能になります。

---

**注意** 非認証のアプリケーション セッションに再接続することはできません。クライアントから切断されると、RDS ホストはローカルのユーザー セッションから自動的にログオフします。

---

## ショートカット キーの組み合わせ

使用する言語に関係なく、一部のキーの組み合わせはリモート デスクトップまたは公開アプリケーションに送信できません。

Web ブラウザによって、一部のキーおよびキーの組み合わせをクライアント システムおよび送付先システムの両方に送信することができます。他のキーおよびキーの組み合わせについては、ローカルでの入力だけが処理され、送付先システムには送信されません。システムで動作するキーの組み合わせは、ブラウザソフトウェア、クライアント オペレーティング システム、および言語設定によって異なります。

---

**注意** Mac を使用している場合、キーの組み合わせを使用して、テキストを選択、コピー、および貼り付ける場合には、Command キーを Windows の Ctrl キーにマッピングできます。この機能を有効にするには、サイドバーにある [[設定] ウィンドウを開く] ツールバー ボタンをクリックして、[コマンド A、コマンド C、コマンド V、およびコマンド X を有効にする] をオンにします。このオプションは、Mac クライアント システムを使用している場合にのみ [設定] ウィンドウに表示されます。

---

以下のキーおよびキーの組み合わせは、リモート デスクトップで動作しない場合があります。

- Ctrl + T
- Ctrl + W
- Ctrl + N
- コマンド キー
- Alt + Enter
- Ctrl + Alt + <任意のキー>

---

**重要** Ctrl + Alt + Del キーを入力するには、サイドバーの先頭にある [Ctrl+Alt+Delete を送信] ツールバー ボタンを使用します。

---

- Caps Lock + <modifier\_key> (Alt または Shift など)
- Chromebook のファンクション キー
- Windows キーの組み合わせ

リモート デスクトップで Windows キーを有効にした場合、リモート デスクトップで次の Windows キーの組み合わせが動作します。この機能を有効にするには、サイドバーにある [[設定] ウィンドウを開く] ツールバー ボタンをクリックして、[デスクトップで Windows キーを有効にします] をオンにします。

---

**重要** [デスクトップで Windows キーを有効にします] をオンにした後は、Ctrl + Win キー (Windows システム)、Ctrl + Command キー (Mac)、または Ctrl + Search キー (Chromebook) を押して Windows キーの押下をシミュレーションします。

---

これらのキーの組み合わせは、公開アプリケーションで動作しません。これらのキーの組み合わせは、Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012 R2、Windows Server 2016 のリモート デスクトップと公開デスクトップで動作します。

Windows 8.x や Windows Server 2012 R2 オペレーティング システムのリモート デスクトップで動作するいくつかのキーの組み合わせは、Windows 7、Windows Server 2008 R2、または Windows 10 オペレーティング システムのリモート デスクトップでは動作しません。



表 3-3. Windows 10 リモート デスクトップと Windows Server 2016 リモート デスクトップの Windows キー ショートカット

キー	アクション	制限
Win	スタートを開くまたは閉じます。	
Win + A	アクション センターを開きます。	
Win + E	ファイル エクスプローラーを開きます。	
Win + G	ゲームが開いているときに、ゲーム バーを開きます。	
Win + H	[共有] チャームを開きます。	
Win + I	[設定] チャームを開きます。	
Win + K	[接続] クイック アクションを開きます。	
Win + M	すべてのウィンドウを最小化します。	
Win + R	[ファイル名を指定して実行] ダイアログ ボックスを開きます。	
Win + S	[検索] を開きます。	
Win + X	[クイック リンク] メニューを開きます。	
Win + , (カンマ)	リモート デスクトップを一時的に表示します。	
Win + Pause	[システム プロパティ] ダイアログ ボックスを表示します。	Chromebooks や Mac には Pause キーはありません。
Win + Shift + M	リモート デスクトップで最小化されたウィンドウを元に戻します。	Safari では動作しません。
Win + Alt + 数字キー	リモート デスクトップを開いて、数字で示す位置にタスクバーでピン留めされているアプリケーションのジャンプリストを開きます。	Chromebook では動作しません。
Win + Enter	ナレーターを開きます。	

表 3-4. Windows 8.x および Windows Server 2012 R2 リモート デスクトップの Windows キー ショートカット

キー	アクション	制限
Win + F1	Windows ヘルプとサポートを開きます。	Safari では動作しません。
Win	[スタート] ウィンドウを表示または非表示にします。	
Win + B	通知領域にフォーカスを設定します。	
Win + C	チャーム パネルを開きます。	
Win + D	リモート デスクトップを表示または非表示にします。	Safari では動作しません。Mac で Command-D キーを押します。
Win + E	ファイル エクスプローラーを開きます。	
Win + H	[共有] チャームを開きます。	
Win + I	[設定] チャームを開きます。	
Win + K	[デバイス] チャームを開きます。	
Win + M	すべてのウィンドウを最小化します。	
Win + Q	アプリケーションの検索がサポートされている場合、開いているアプリ内または任意の場所を検索するため、[検索] チャームを開きます。	
Win + R	[ファイル名を指定して実行] ダイアログ ボックスを開きます。	

表 3-4. Windows 8.x および Windows Server 2012 R2 リモート デスクトップの Windows キー ショートカット (続き)

キー	アクション	制限
Win + S	Windows と Web を検索するため、[検索] チャームを開きます。	
Win + X	[クイック リンク] メニューを開きます。	
Win + Z	アプリケーションで利用可能なコマンドを表示します。	
Win + , (カンマ)	このキーの組み合わせを押し続けている限り、リモート デスクトップを一時的に表示します。	Windows 2012 R2 オペレーティングシステムでは動作しません。
Win + Pause	[システム プロパティ] ダイアログ ボックスを表示します。	Chromebook と Mac には Pause キーがありません。
Win + Shift + M	リモート デスクトップで最小化されたウィンドウを元に戻します。	Safari では動作しません。Mac で Command-D キーを押します。
Win + Alt + 数字キー	リモート デスクトップを開いて、数字で示す位置にタスクバーでピン留めされているアプリケーションのジャンプ リストを開きます。	Chromebook では動作しません。
Win + 上向き矢印	ウィンドウを最大化します。	Chromebook では動作しません。
Win + 下向き矢印	画面から現在のアプリケーションを削除するか、リモート デスクトップのウィンドウを最小化します。	Chromebook では動作しません。
Win + 左向き矢印	アプリケーションまたはリモート デスクトップのウィンドウを画面の左側で最大化します。	Chromebook では動作しません。
Win + 右向き矢印	アプリケーションまたはリモート デスクトップのウィンドウを画面の右側で最大化します。	Chromebook では動作しません。
Win + Home	アクティブなリモート デスクトップのウィンドウ以外のすべてのウィンドウを最小化します (Win + Home キーをもう一度押すとすべてのウィンドウが元に戻ります)。	Safari ブラウザでは動作しません。
Win + Shift + 上向き矢印	リモート デスクトップのウィンドウを画面の上下にまで拡大します。	Chromebook では動作しません。
Win + Shift + 下向き矢印	Win + Shift + 上向き矢印キーを押した後に、幅を維持しながらリモート デスクトップのウィンドウの縦幅を元に戻します。または、アクティブなデスクトップウィンドウを最小化します。	Chromebook では動作しません。
Win + Enter	ナレーターを開きます。	

表 3-5. Windows 7 および Windows Server 2008 R2 リモート デスクトップの Windows キー ショートカット

キー	アクション	制限
Win	[スタート] メニューを開くまたは閉じます。	
Win + Pause	[システム プロパティ] ダイアログ ボックスを表示します。	Chromebook と Mac には Pause キーがありません。
Win + D	リモート デスクトップを表示または非表示にします。	Safari では動作しません。Mac で Command-D キーを押します。
Win + M	すべてのウィンドウを最小化します。	
Win + E	<b>Computer</b> フォルダを開きます。	
Win + R	[ファイル名を指定して実行] ダイアログ ボックスを開きます。	
Win + 上向き矢印	ウィンドウを最大化します。	Chromebook では動作しません。

表 3-5. Windows 7 および Windows Server 2008 R2 リモート デスクトップの Windows キー ショートカット (続き)

キー	アクション	制限
Win + 下向き矢印	ウィンドウを最小化します。	Chromebook では動作しません。
Win + 左向き矢印	アプリケーションまたはリモート デスクトップのウィンドウを左側で最大化します。	Chromebook では動作しません。
Win + 右向き矢印	アプリケーションまたはリモート デスクトップのウィンドウを右側で最大化します。	Chromebook では動作しません。
Win + Home	アクティブなリモート デスクトップのウィンドウを除くすべてのウィンドウを最小化します。	Safari では動作しません。
Win + Shift + 上向き矢印	リモート デスクトップのウィンドウを画面の上下にまで拡大します。	Chromebook では動作しません。
Win + G	実行中のリモート デスクトップ ガジェットを順に切り換えます。	
Win + U	[コンピューターの簡単操作センター] を開きます。	

## 国際キーボード

英語以外のキーボードとロケールを使用している場合、クライアントシステム、ブラウザおよびリモート デスクトップで特定の設定を使用する必要があります。一部の言語では、リモート デスクトップで IME (Input Method Editor) を使用する必要があります。

ローカル設定とインプット メソッドを正しくインストールすれば、以下の言語で文字を入力できます：英語、日本語、フランス語、ドイツ語、簡体字中国語、繁体字中国語、韓国語、およびスペイン語。

表 3-6. 必要な入力言語設定

言語	ローカル クライアント システムの入力言語	ローカル クライアント システムで IME が必要かどうか	リモート デスクトップのブラウザと入力言語	リモート デスクトップで IME は必要か
英語	英語	いいえ	英語	いいえ
フランス語	フランス語	いいえ	フランス語	いいえ
ドイツ語	ドイツ語	いいえ	ドイツ語	いいえ
簡体中国語	簡体中国語	英語入力モード	簡体中国語	はい
繁体中国語	繁体中国語	英語入力モード	繁体中国語	はい
日本語	日本語	英語入力モード	日本語	はい
韓国語	韓国語	英語入力モード	韓国語	はい
スペイン語	スペイン語	いいえ	スペイン語	いいえ

## スクリーン解像度

Horizon Administrator が適切な容量のビデオ RAM で構成されていると、Web Client でリモート デスクトップのサイズをブラウザウィンドウのサイズに合わせて変更できます。ビデオ RAM のデフォルト設定は 36MB で、3D アプリケーションを使用しなければ、最小要件の 16MB よりも快適な環境となります。

Retina ディスプレイの Macbook や Google Chromebook Pixel など、ピクセル密度解像度が高いブラウザや Chrome デバイスを使用している場合は、その解像度を使用するようにリモート デスクトップやアプリケーションを設定できます。[設定] ウィンドウで [高解像度モード] オプションをオンにします。このウィンドウには、サイドバーからアクセスできます。このオプションが [設定] ウィンドウに表示されるのは、高解像度ディスプレイを使用しているか、通常の画面を 100% を超えるスケールで使用している場合だけです。

3D レンダリング機能を使用するには、それぞれのリモート デスクトップに十分な VRAM を割り当てる必要があります。

- vSphere 5.0 以降で利用できる、ソフトウェア アクセラレータによるグラフィック機能によって、Windows Aero テーマや Google Earth などの 3D アプリケーションを使用できます。この機能には、64MB ~ 128MB の VRAM が必要です。
- vSphere 5.1 以降で利用できる、ハードウェア アクセラレータによるグラフィック機能 (vSGA) によって、デザイン、モデリング、およびマルチメディア用の 3D アプリケーションを使用できます。この機能には、64MB ~ 512MB の VRAM が必要です。デフォルトは 96MB です。
- vSphere 5.5 以降で利用できる専用のハードウェア高速グラフィックス機能 (vDGA) は、ESXi ホスト上の単一の物理的な GPU (グラフィック処理ユニット) を単一の仮想マシン専用にするための機能です。この機能は、ハイエンドのハードウェア高速ワークステーション グラフィックスが必要な場合に使用します。この機能には、64MB ~ 512MB の VRAM が必要です。デフォルトは 96MB です。

3D レンダリングが有効である場合、モニターの最大数は 1 で最大解像度は 3840 x 2160 です。

同様に、Retina ディスプレイの Macbook や Google Chromebook Pixel など、ピクセル密度解像度が高いブラウザやデバイスを使用している場合は、各リモート デスクトップに十分な VRAM を割り当てる必要があります。

---

**重要** VMware Blast 表示プロトコルに必要な VRAM 容量の計算は、PCoIP 表示プロトコルに必要な VRAM の計算に類似しています。ガイドラインについては、『Horizon 7 アーキテクチャ プランニング』のトピック「仮想デスクトップのメモリ要件の計算」の「PCoIP を使用する場合の特定のモニター構成の RAM サイジング」を参照してください。

---

## H.264 デコードの許可

Chrome ブラウザを使用している場合、リモート デスクトップや公開アプリケーション セッションにクライアントで H.264 デコードを許可できます。

H.264 デコードを許可すると、エージェントが H.264 エンコードをサポートする場合に、HTML Access クライアントは H.264 デコードを使用します。エージェントが H.264 エンコードをサポートしない場合、HTML Access クライアントは JPEG/PNG デコードを使用します。

リモート デスクトップや公開アプリケーションに接続している場合、サイドバーから利用できる **[設定]** ウィンドウの [H.264 デコードを許可する] オプションをオンにして H.264 デコードを許可できます。新しい設定を有効にするには、リモート デスクトップや公開アプリケーションを切断してから再接続する必要があります。

リモート デスクトップや公開アプリケーションに接続していない場合、デスクトップとアプリケーションの選択ウィンドウの右上隅にある **[設定]** ツールバー ボタンをクリックして、**[設定]** ウィンドウで [H.264 デコードを許可する] オプションをオンにできます。設定を変更した後に接続したセッションで、新しい設定が有効になります。

## タイム ゾーンの設定

リモート デスクトップまたは公開アプリケーションのタイムゾーンには、ローカル システムのタイムゾーンが自動的に設定されます。

ただし、HTML Access クライアントで、特定の夏時間ポリシーのためタイムゾーンを正しく特定できない場合は、タイムゾーンを手動で設定する必要があります。

リモート デスクトップまたは公開アプリケーションに手動で接続する前に、適切なタイムゾーン情報を設定するには、デスクトップおよびアプリケーション選択ウィンドウの右上隅にある [設定] ツールバー ボタンをクリックします。[設定] ウィンドウで [タイムゾーンを自動的に設定する] オプションをオフにして、ドロップダウン メニューからタイムゾーンを 1 つ選択します。

選択した値は、リモート デスクトップまたは公開アプリケーションに接続するときに優先的に使用されるタイムゾーンとして保存されます。

リモート デスクトップまたは公開アプリケーションにすでに接続している場合は、デスクトップおよびアプリケーション選択ウィンドウに戻り、現在のタイムゾーン設定を変更します。

サイドバーからアクセスできる [設定] ウィンドウでは、[タイムゾーンを自動的に設定する] オプションは使用できません。

---

**注意** [タイムゾーンを自動的に設定する] オプションが **true** に設定されている場合、Android デバイスで Chrome ブラウザを使用するときに Android のシステムのタイムゾーンを変更しても、新しいタイムゾーンはリモート デスクトップに自動的に同期されません。この問題は、Android システムの Chrome の制約で発生します。選択したタイムゾーンに同期するには、Android デバイスと Chrome ブラウザを再起動する必要があります。

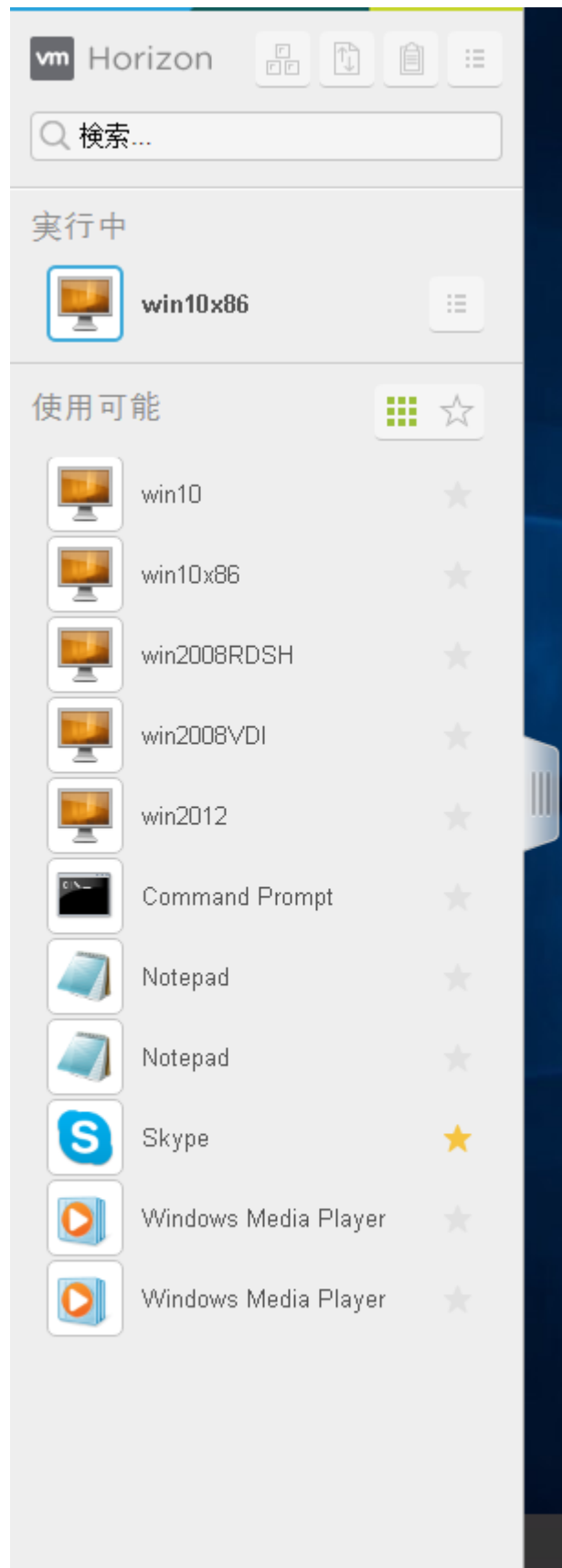
---

## サイドバーの使用

リモート デスクトップまたは公開アプリケーションに接続したら、サイドバーを使用して、他のリモート デスクトップや公開アプリケーションを起動したり、実行中のリモート デスクトップと公開アプリケーションを切り替えたり、その他の操作を実行したりできます。

サイドバーは、リモート デスクトップや公開アプリケーションのウィンドウの左側に表示されます。サイドバーを表示または非表示にするには、サイドバーのタブをクリックします。このタブは上下にスライドできます。

図 3-1. リモート デスクトップまたは公開アプリケーションの起動時に表示されるサイドバー



実行中の公開アプリケーションで開いているドキュメントのリストを表示するには、[実行中] リストで公開アプリケーションの横にある拡張矢印をクリックします。

**注意** 2つの異なるサーバにホストされている同じ公開アプリケーションから2つのドキュメントを開いている場合、サイドバーの [実行中] リストに同じ公開アプリケーションが2回表示されます。

サイドバーで多くのアクションを実行できます。

表 3-7. サイドバーの操作

アクション	手順
サイドバーを表示	公開アプリケーションまたはリモート デスクトップが開いている場合は、サイドバーのタブをクリックします。このサイドバーが開いているときでも、公開アプリケーションまたはリモート デスクトップのウィンドウで操作を実行できます。
サイドバーを非表示にする	サイドバー タブをクリックします。
公開アプリケーションまたはリモート デスクトップを起動する	サイドバーの [使用可能] リストにある公開アプリケーションまたはリモート デスクトップの名前をクリックします。リモート デスクトップが最初に表示されます。
公開アプリケーションまたはリモート デスクトップを検索する	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ [検索] ボックスをクリックし、公開アプリケーションまたはリモート デスクトップの名前を入力します。</li> <li>■ 公開アプリケーションまたはリモート デスクトップを起動するには、検索結果に表示された名前をクリックします。</li> <li>■ サイドバーのホーム表示に戻るには、検索ボックスの [X] をタップします。</li> </ul>
お気に入りの公開アプリケーションまたはリモート デスクトップの一覧を作成する	サイドバーの [使用可能] リストにあるリモート デスクトップや公開アプリケーションの名前の横にある灰色の星をクリックします。次に、[使用可能] の横にある [お気に入りを表示] ツールバー ボタン (星のアイコン) をクリックして、お気に入りだけのリストを表示できます。
公開アプリケーションまたはリモート デスクトップを切り替える	サイドバーの [実行中] リストにある公開アプリケーションまたはリモート デスクトップの名前をクリックします。
実行中のリモート デスクトップを閉じる	<p>サイドバーの [実行中] リストにあるリモート デスクトップ名の横の [メニューを開く] ボタンをクリックして、アクション選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ [閉じる] を選択すると、オペレーティングシステムからログアウトせずに、リモート デスクトップから切断します。Horizon 管理者は、切断時に自動的にログオフするようにリモート デスクトップを設定できます。この場合、開いているアプリケーションで保存されていない変更は失われます。</li> <li>■ [ログオフ] を選択すると、オペレーティングシステムからログアウトして、リモート デスクトップから切断します。開いているアプリケーションで保存されていない変更は失われます。</li> </ul>
動作中の公開アプリケーションを閉じる	<p>サイドバーの [実行中] リストにある公開アプリケーション名のファイル名の横にある [X] をクリックします。公開アプリケーション名の横にある [X] をクリックして、公開アプリケーションを終了して、その公開アプリケーションの開いているすべてのファイルを閉じます。</p> <p>これらのファイルへの変更を保存するように求められます。</p>
リモート デスクトップのリセット	サイドバーの [実行中] リストにあるリモート デスクトップ名の横の [メニューを開く] ボタンをクリックして、[リセット] を選択します。リモート デスクトップで開いているファイルが、保存されずに終了します。リモート デスクトップをリセットできるのは、Horizon 管理者がこの機能を有効にしている場合のみです。
リモート デスクトップの再起動	サイドバーの [実行中] リストにあるリモート デスクトップ名の横の [メニューを開く] ボタンをクリックして、[再起動] を選択します。通常、リモート デスクトップのオペレーティングシステムは、再起動の前に未保存データを保存するように求めます。リモート デスクトップを再起動できるのは、Horizon 管理者がこの機能を有効にしている場合のみです。

表 3-7. サイドバーの操作 (続き)

アクション	手順
実行中のすべての公開アプリケーションのリセット	サイドバーの上部にある [メニューを開く] ツールバー ボタンをクリックして、[設定] をクリックし、[実行中のすべてのアプリケーションをリセットします] をクリックします。保存されていないすべての変更は失われます。
Windows キーを含むキーの組み合わせを使用する	サイドバーの上部にある [メニューを開く] ツールバー ボタンをクリックして、[設定] をクリックし、[デスクトップで Windows キーを有効にします] をオンにします。詳細については、 <a href="#">「ショートカット キーの組み合わせ」</a> を参照してください。
現在の作業領域に Ctrl+Alt+Del を送信する	サイドバーの上部にある [Ctrl+Alt+Delete を送信] ツールバー ボタンをクリックします。
サーバからの切断	サイドバーの上部にある [メニューを開く] ツールバー ボタンをクリックして、[ログアウト] をクリックします。
H.264 デコードを許可する	サイドバーの上部にある [メニューを開く] ツールバー ボタンをクリックして、[設定] をクリックし、[H.264 デコードを許可する] をオンにします。詳細については、 <a href="#">「H.264 デコードの許可」</a> を参照してください。
ヘルプ トピックを表示する	サイドバーの上部にある [メニューを開く] ツールバー ボタンをクリックして、[設定] をクリックし、[ヘルプ] をクリックします。サイドバーの上部にある Horizon のロゴをクリックして、[ヘルプ] をクリックします。
[VMware Horizon Client のバージョン情報] ダイアログ ボックスを表示する	サイドバーの上部にある [メニューを開く] ツールバー ボタンまたは Horizon のロゴをクリックして、[バージョン情報] をクリックします。サイドバーの上部にある Horizon ロゴをクリックします。

## 複数のモニターの使用

Chrome ブラウザ (バージョン 55 以降) を使用すると、HTML Access Web client でマルチモニタを使用してリモート デスクトップ ウィンドウを表示できます。

プライマリ モニターに最大で 1 台のモニターを追加して、接続している現在のリモート デスクトップ ウィンドウを表示できます。たとえば、3 台のモニターがある場合、リモート デスクトップ ウィンドウを 2 台のモニターにのみ表示するように指定できます。マルチモニタのセットアップでは、隣接するモニターを選択する必要があります。モニターは横または縦に並べて配置できます。

HTML Access Web client 4.5 以降では、マルチモニタ機能を有効にすると、デバイスごとに DPI 同期が適用されません。DPI の設定が異なる 2 台のモニターを使用している場合、HTML Access Agent の DPI は、HTML Access Web client セッションを使用したクライアント マシンのモニターの DPI と同じ値に設定されます。

### 手順

- 1 Horizon Client を起動し、サーバにログインします。
- 2 デスクトップとアプリケーションの選択ウィンドウで、アクセスするリモート デスクトップのアイコンをクリックします。
- 3 サイドバーを表示するには、サイドバーのタブをクリックします。
- 4 サイドバーの上部にある [メニューを開く] ツールバー ボタンをクリックして、[表示設定] をクリックします。



- 5 [表示設定] ダイアログ ボックスで、[ディスプレイの追加] をクリックします。

---

**注意** [ディスプレイ セレクタ] ブラウザ ウィンドウが表示されない場合、Horizon サーバの FQDN アドレスをブラウザの [コンテンツの設定] ウィンドウの [ポップアップの例外] セクションに追加します。

---

- 6 [ディスプレイ セレクタ] ウィンドウをドラッグして、使用する別のモニターのディスプレイに表示させます。  
[ディスプレイ セレクタ] ブラウザ ウィンドウのメッセージが変わり、グレーの長方形のアイコンが追加されます。
- 7 [ディスプレイ セレクタ] ブラウザ ウィンドウで、[+] モニター アイコンをクリックして、現在のモニター ディスプレイを使用することを確認します。

**他のディスプレイを待機しています**というメッセージが、現在のモニター ディスプレイに表示され、プライマリ ディスプレイの [表示設定] ウィンドウにあるグレーのモニター アイコンが緑色に変わります。

- 8 セッションに使用するモニター ディスプレイを追加したら、[表示設定] ウィンドウで [OK] をクリックします。  
[表示設定] ウィンドウが閉じられ、プライマリではないモニターのディスプレイで**他のディスプレイを待機しています**というメッセージがクリアされ、リモート デスクトップ ウィンドウが表示されます。
- 9 マルチ ディスプレイ モードを終了するには、Esc キーを押して、[マルチ ディスプレイ モードの終了] ダイアログ ボックスで [はい] をクリックして、終了することを確認します。

---

**注意** リモート デスクトップで Esc キーを使用する必要がある場合には、毎回、サイドバー タブを開き、サイドバーの上部にある [メニューを開く] ツールバー ボタンをクリックし、[ESC の送信] を選択します。

---

## DPI 同期の使用

DPI 同期機能により、リモート デスクトップまたは公開アプリケーションの DPI 設定とクライアント システムの DPI 設定が確実に一致します。新しいリモート セッションを開始すると、Horizon Agent によりリモート セッションの DPI 値とクライアント システムの DPI 値とが一致するよう設定されます。

DPI 同期機能によって、アクティブなリモート セッションの DPI 設定を変更することはできません。既存のリモート セッションに再接続する場合、ディスプレイのスケーリング機能によって、リモート デスクトップや公開アプリケーションが適切にスケーリングされます。

[設定] ウィンドウで [高解像度モード] が無効な場合に、DPI 同期機能は有効になります。HTML Access バージョン 4.5 以降では、管理者が [DPI 同期] エージェント グループ ポリシー設定を無効にすると、DPI 同期機能を無効にできますが、ディスプレイのスケーリング機能は無効にできません。設定の変更を有効にするには、ログアウトしてからもう一度ログインする必要があります。[DPI 同期] グループ ポリシーの設定については、『Horizon 7 でのリモート デスクトップ機能の構成』ドキュメントを参照してください。

DPI 同期機能を使用する場合、シングルセッションのデスクトップでは Windows 7 以降、RDS ホストの公開デスクトップや公開アプリケーションでは Windows Server 2008 R2 以降、Horizon Agent 7.0.2 以降、および HTML Access バージョン 4.4 以降が必要となります。

DPI 同期機能を使用するときのヒントを、次に説明します。

- クライアント システムで DPI 設定を変更する場合、Horizon Client にクライアント システムの新しい DPI 設定を認識させるため、ログアウトしてからもう一度ログインする必要があります。クライアント システムで Windows 10 が実行されている場合でも、この要件は適用されます。

- DPI 設定が 100 パーセント以上になっているクライアントシステムでリモート セッションを開始してから、100 パーセント以上の異なる DPI 設定になっている別のクライアントシステムで同じセッションを使用する場合、2 番目のクライアントシステムで DPI を同期するには、2 番目のクライアントシステムでログアウトしてから再度ログインしてリモート セッションに戻る必要があります。
- Windows 10 および Windows 8.x システムは異なるモニターで異なる DPI 設定をサポートしますが、HTML Access クライアント セッションの起動に使用された Web ブラウザがあるクライアントシステムのモニターで設定された DPI 値が、DPI 同期機能で使用されます。HTML Access は、異なるモニターで異なる DPI 設定をサポートしません。
- 別の DPI 設定を使用して別のモニターと同期する場合は、リモート デスクトップまたは公開アプリケーションからログアウトし、HTML Access クライアント セッションの起動に使用された Web ブラウザを他のモニターにドラッグしてから、リモート デスクトップまたは公開アプリケーションに再ログインして、クライアントシステムとリモート デスクトップや公開アプリケーションの DPI 設定を一致させます。

## 音声

リモート デスクトップおよび公開アプリケーションで音声を再生できますが、いくつか制限があります。

デフォルトでは、リモート デスクトップおよびアプリケーションでの音声の再生が有効になっていますが、Horizon 管理者がポリシーを設定することで、音声の再生を無効にできます。

リモート デスクトップや公開アプリケーションで音声を再生するときに、次の制限が適用されます。

- 音量を上げるには、リモート デスクトップのサウンド コントロールではなく、クライアントシステムのサウンド コントロールを使用します。
- 時々、音声ビデオと同期しなくなることがあります。
- ネットワークトラフィックが集中していたり、ブラウザが大量のタスクを実行していると、音質が低下することがあります。使用するブラウザを変えると改善されることがあります。

## テキストのコピーおよび貼り付け

リモート デスクトップや公開アプリケーションにテキストをコピーしたり、リモート デスクトップや公開アプリケーションからテキストをコピーできます。Horizon 管理者は、クライアントシステムからリモート デスクトップまたは公開アプリケーションへのコピー アンド ペースト操作のみを許可する、リモート デスクトップまたは公開アプリケーションからクライアントシステムへのコピー アンド ペースト操作のみを許可する、その両方を許可する、またはどちらも許可しないように、この機能を設定できます。

Horizon 管理者は、View Agent または Horizon Agent をリモート デスクトップに関連付けるグループ ポリシーを使用して、コピーおよび貼り付けの機能を設定できます。詳細については、[「HTML Access グループ ポリシー設定」](#)を参照してください。また、Horizon 管理者は、コピー アンド ペーストする時に、グループ ポリシーを使用してクリップボードの形式を制限できます。HTML Access ではクリップボード内のテキストの転送のみをサポートするため、HTML Access クライアントではテキスト フィルタだけが動作します。グループ ポリシーを使用してクリップボードの形式をフィルタする詳細については、『Horizon 7 でのリモート デスクトップ機能の構成』を参照してください。

任意の Unicode の非 ASCII 文字を含め、最大で 1MB のテキストをコピーできます。クライアント システムからリモート デスクトップまたは公開アプリケーション、あるいはその逆にテキストをコピーできますが、貼り付けたテキストはプレーン テキストになります。

画像をコピーおよび貼り付けできません。リモート デスクトップとクライアント コンピュータのファイル システム間では、ファイルもコピー アンド ペーストできません。

---

**注意** iOS Safari と Android デバイスでは、コピー アンド ペースト機能がサポートされていません。

---

## コピーおよび貼り付け機能の使用

テキストをコピーして貼り付けるには、サイドバーの上部にある [コピーおよび貼り付け] ボタンを使用する必要があります。

この手順では、[コピーおよび貼り付け] ウィンドウを使用してローカル クライアント システムからリモート アプリケーションにテキストをコピーする方法や、リモート アプリケーションからローカル クライアント システムにテキストをコピーする方法を説明します。しかし、リモート アプリケーションとデスクトップ間でテキストをコピーしている場合には、通常と同じ操作でコピーおよび貼り付けすることができ、[コピーおよび貼り付け] ウィンドウを使用する必要はありません。

HTML Access のサイドバーの上部にあるボタンから開くことができる [コピーおよび貼り付け] ウィンドウは、ローカル システムのクリップボードとリモート マシンのクリップボードを同期する場合にのみ必要となります。

[コピーおよび貼り付け] ウィンドウのテキストは、ユーザーがコンテンツをコピーおよび貼り付けできる方向を示す次のメッセージのいずれかを表示します。

- このパネルを使用して、ローカルのクライアントとリモートデスクトップ/アプリケーション間にコピーおよび貼り付けします。
- このパネルを使用して、ローカルのクライアントからリモートデスクトップ/アプリケーションにコピーおよび貼り付けします。
- このパネルを使用して、リモートデスクトップ/アプリケーションからローカルのクライアントにコピーおよび貼り付けします。

---

**注意** デフォルトのクリップボード リダイレクト グループ ポリシー設定を使用すると、クライアント システムからリモート デスクトップまたはアプリケーションへの貼り付けのみが許可されます。リモート デスクトップまたはアプリケーションからクライアント システムへのコピーを許可するには、このポリシー設定を両方の方向で有効にする必要があります。詳細は Horizon 管理者にお問い合わせください。

---

### 開始する前に

Mac を使用している場合、キーの組み合わせを使用して、テキストを選択、コピー、および貼り付ける際に、Command キーを Windows の Ctrl キーにマッピングする設定を有効にしていることを確認します。サイドバーにある [[設定] ウィンドウを開く] ツールバー ボタンをクリックして、[Command + A、Command + C、Command + V、および Command + X を有効にする] をオンにします（このオプションは、Mac を使用している場合にのみ [設定] ウィンドウに表示されます）。

Horizon 管理者は、ユーザーにクライアント システムからリモート デスクトップおよびアプリケーションへのコピーと貼り付けを許可するデフォルトのポリシーを有効なままにするか、コピーと貼り付けを許可する他のポリシーを構成する必要があります。詳細については、「[HTML Access グループ ポリシー設定](#)」を参照してください。

## 手順

- クライアント システムからリモート デスクトップやアプリケーションにテキストをコピーするには、以下の手順を実行します。
  - a ローカル クライアント アプリケーションでテキストをコピーします。
  - b ブラウザで、HTML Access サイドバー タブをクリックしてサイドバーを開き、サイドバーの上部にある [コピーおよび貼り付け] をクリックします。

[コピーおよび貼り付け] ウィンドウが表示されます。以前にコピーしたテキストがすでにウィンドウに表示されている場合、新しくコピーされたテキストを貼り付けると、そのテキストは置換されます。
  - c [コピーおよび貼り付け] ウィンドウにテキストを貼り付けるには、Ctrl + V (Mac の場合は Command-V) キーを押します。

**「リモート クリップボードが同期されました」**というメッセージが一時的に表示されます。
  - d テキストを貼り付けるリモート アプリケーション内の場所をクリックして、Ctrl + V キーを押します。

テキストがリモート アプリケーションに貼り付けられます。
- リモート デスクトップやアプリケーションからクライアント システムにテキストをコピーするには、以下の手順を実行します。
  - a リモート アプリケーションでテキストをコピーします。
  - b ブラウザで、HTML Access サイドバー タブをクリックしてサイドバーを開き、サイドバーの上部にある [コピーおよび貼り付け] をクリックします。

すでにテキストが貼り付けられた状態で [コピーおよび貼り付け] ウィンドウが表示されます。**「リモート クリップボードが同期されました」**というメッセージが一時的に表示されます。
  - c テキストを再度コピーするには、[コピーおよび貼り付け] ウィンドウ内をクリックし、Ctrl + C (Mac の場合は Command-C) キーを押します。

このアクションを実行するとテキストは選択されず、テキストを選択することはできません。**「クリップボードパネルからコピーされました」**というメッセージが一時的に表示されます。
  - d クライアント システムで、テキストを貼り付ける場所をクリックして、Ctrl + V キーを押します。

テキストは、クライアント システムのアプリケーションに貼り付けられます。

## クライアントとリモート デスクトップ間でのファイルの転送

ファイル転送機能を使用して、クライアントとリモート デスクトップ間でファイルを転送（アップロードとダウンロード）できます。公開アプリケーションとのファイル転送はサポートされません。

---

**注意** この機能は、リモート Linux デスクトップ、Android デバイスまたはリモート アプリケーション セッションで使用できません。

---

Horizon 管理者は、VMware Blast プロトコルに対する [Configure file transfer] グループ ポリシー設定を変更することにより、ファイルの転送を許可、禁止、または一方向のみ許可するように構成できます。デフォルトはアップロードのみです。VMware Blast プロトコルに [設定されたファイル転送] グループのポリシー設定で、[アップロードとダウンロードの両方が無効] になっている場合、[ファイル転送] ボタンは無効になります。[ファイルのアップロードのみが有効] になっている場合、[アップロード] タブのみが [ファイル転送] ダイアログ ウィンドウに表示されます。[ファイルのダウンロードのみを有効にする] の値が選択されている場合、[ダウンロード] タブのみが [ファイル転送] ダイアログ ウィンドウに表示されます。詳細については、[HTML Access グループ ポリシー設定](#) を参照してください。

ダウンロードの場合の最大ファイル サイズは 500 MB、アップロードの場合の最大ファイル サイズは 2 GB です。32 ビット Internet Explorer 11 の場合、300 MB より大きなファイルのダウンロードは機能しない場合があります。この問題を解決するには、Internet Explorer 11 を 64 ビット モードで 実行します。

フォルダまたはサイズがゼロのファイルのダウンロードまたはアップロードはできません。

iOS の Safari および Safari 8 はアップロードもダウンロードもサポートしません。Safari 9 以降では、ダウンロードをサポートしていません。

ファイル転送がデスクトップ セッションで進行中の状態で、ユーザーが 2 つ目のデスクトップに対する接続を開き、かつセキュリティ 警告が表示された場合（たとえば、有効な証明書がインストールされなかった場合に警告が表示される）、この警告を無視して 2 つ目のデスクトップとの接続を継続した場合、最初のデスクトップ セッションでのファイル転送は中断することになります。これは、想定どおりの動作です。

---

**注意** ダウンロード機能は、クリップボードリダイレクトに対するグループ ポリシー設定の影響を受けます。サーバからクライアントへのクリップボードリダイレクトが無効になっている場合、ファイルのダウンロードも無効になります。

---

## デスクトップからクライアントにファイルをダウンロード

Horizon Client で、リモート デスクトップからクライアント マシンにファイルをダウンロードできます。

### 手順

- 1 サイドバーの上部にあるファイル転送アイコンをクリックします。  
[[転送ファイル]] ウィンドウが開きます。
- 2 [ダウンロード] をクリックします。
- 3 リモート デスクトップの 1 つ以上のファイルを選択します。
- 4 Ctrl + C キーを押して、ダウンロードを開始します。
- 5 ダウンロードの完了後、ダウンロード アイコンをクリックしてクライアント マシンにファイルを保存します。

## クライアントからデスクトップへファイルのアップロード

Horizon Client で、クライアント マシンからリモート デスクトップへファイルをアップロードできます。

## 手順

- 1 サイドバーの上部にある ファイル転送アイコンをクリックします。

[転送ファイル] ウィンドウが開きます。

- 2 [アップロード] をクリックします。

- 3 [転送ファイル] ウィンドウへ ファイルをドラッグ アンド ドロップするか、[ファイルの選択] をクリックしてファイルを選択します。

選択されたファイルは、**My Documents** フォルダへアップロードされます。

Internet Explorer 11 および ChromeBook の Chrome では、フォルダ、ゼロ サイズのファイル、あるいは 2 GB を超えるファイルをドラッグ アンド ドロップすると、予測通りエラー メッセージが表示されます。エラーメッセージを閉じた後は、転送可能なファイルのドラッグ アンド ドロップはできません。

## Web カメラとマイクでリアルタイム オーディオ ビデオ機能を使用

リアルタイム オーディオビデオ機能を使用すれば、リモート デスクトップまたは公開アプリケーションでクライアント マシンの Web カメラまたはマイクを使用できます。リアルタイム オーディオ ビデオは、標準的な会議アプリケーションおよびブラウザベースのビデオ アプリケーションと互換性があり、標準的な webcam、オーディオ USB デバイス、およびアナログ オーディオ入力をサポートします。

リアルタイム オーディオビデオは、Chrome、Microsoft Edge、および Firefox でのみサポートされます。デフォルト ビデオ解像度は 320 x 240 です。リアルタイム オーディオビデオのデフォルト設定は、ほとんどの Web カメラおよびオーディオ アプリケーションで適切に機能します。

リアルタイム オーディオビデオの設定変更の詳細については、『Horizon 7 でのリモート デスクトップ機能の構成』の「リアルタイム オーディオ ビデオ グループ ポリシー設定の構成」を参照してください。

リモート デスクトップや公開アプリケーションがクライアント マシンの Web カメラやマイクに接続している場合、Web カメラやマイクがリモート デスクトップや公開アプリケーションで使えるようになる前に、ブラウザから許可を求められる場合があります。この動作はブラウザによって異なります。

- Microsoft Edge は毎回許可を要求します。この動作は変更できません。詳細については、<https://blogs.windows.com/msedgedev/2015/05/13/announcing-media-capture-functionality-in-microsoft-edge> を参照してください。
- Firefox は毎回許可を要求してきます。この動作は変更できます。詳細については、<https://support.mozilla.org/en-US/kb/permissions-manager-give-ability-store-passwords-set-cookies-more?redirectlocale=en-US&redirectslug=how-do-i-manage-website-permissions> を参照してください。
- Chrome は、初回に許可を要求します。デバイスの使用を許可すると、Chrome は再度許可を要求しなくなります。

リモート デスクトップがクライアント マシンの Web カメラまたはマイクロフォンに接続されると、各デバイスのアイコンがサイドバーの上部に表示されます。サイドバーのデバイス アイコンの上に赤色のクエスチョン マークが表示され、許可が要求されていることが示されます。デバイスの使用を許可すると、赤色のクエスチョン マークは非表示になります。許可の要求を拒否すると、デバイスのアイコンが非表示になります。

リモート デスクトップや公開アプリケーションのセッションでリアルタイム オーディオビデオを使用しており、セカンド デスクトップや公開アプリケーションへの接続するときに、セキュリティの警告が表示される場合（たとえば、有効な証明書がインストールされていないなど）、この警告を無視して 2 番目のリモート デスクトップや公開アプリケーションへの接続を続行すると、最初のセッションでリアルタイム オーディオビデオの動作が停止します。

## セッション共同作業機能の使用

セッション共同作業機能を使用すると、他のユーザーを既存のリモート デスクトップ セッションに招待できます。

### リモート デスクトップ セッションに参加するユーザーの招待

リモート デスクトップでセッション共同作業機能を有効にすると、他のユーザーを既存のリモート デスクトップ セッションに招待できます。

デフォルトでは、セッション共同作業の招待状を E メールまたはインスタント メッセージ (IM) で送信できます。また、リンクをクリップボードにコピーして、ユーザーに転送することもできます。招待状を E メールで送信するには、E メール アプリケーションがインストールされている必要があります。招待状を IM で送信するには、Skype for Business がインストールされ、設定されている必要があります。招待できるのは、サーバで認証可能なドメインのユーザーだけです。デフォルトでは、最大 5 人のユーザーを招待できます。

セッション共同作業機能には次の制限があります。

- 複数のモニターを使用している場合、プライマリ モニターにのみセッション共同作業者が表示されます。
- リモート デスクトップ セッションを作成するときに、VMware Blast 表示プロトコルを選択する必要があります。セッション共同作業機能は、PCoIP または RDP セッションに対応していません。
- H.264 ハードウェア エンコードに対応していません。セッション オーナーがハードウェア エンコードを使用しているときに、共同作業者がセッションに参加すると、両方ともソフトウェア エンコードに戻ります。
- 匿名で共同作業を行うことはできません。セッション共同作業者は、Horizon がサポートする認証メカニズムで識別可能でなければなりません。
- セッション共同作業者が Horizon Client 4.7 for Windows、Mac、または Linux をインストールしているか、HTML Access 4.7 以降を使用する必要があります。セッション共同作業者がサポート対象外の Horizon Client バージョンを使用している場合、共同作業のリンクをクリックすると、エラー メッセージが表示されます。
- セッションの共同作業機能は、Linux リモート デスクトップ セッションや公開アプリケーション セッションの共有には使用できません。

#### 開始する前に

リモート デスクトップ セッションに参加するユーザーを招待するには、Horizon 管理者がセッション共同作業機能を有効にする必要があります。

これにより、デスクトップ プールまたはファーム レベルでセッション共同作業機能を有効にします。また、グループ ポリシーを使用して、使用可能な招待方法などのセッション共同作業機能を設定することもできます。詳しい要件については、「[セッション共同作業機能の要件](#)」を参照してください。




デスクトップ プールでセッション共同作業機能を有効にする方法については、『Horizon 7 での仮想デスクトップのセットアップ』ドキュメントを参照してください。ファームでセッション共同作業機能を有効にする方法については、『Horizon 7 での公開されたデスクトップとアプリケーションのセットアップ』ドキュメントを参照してください。グループ ポリシー設定を使用してセッション共同作業機能を設定する方法については、『Horizon 7 でのリモート デスクトップ機能の構成』ドキュメントを参照してください。

## 手順

- 1 セッション共同作業機能が有効になっているリモート デスクトップに接続します。

VMware Blast 表示プロトコルを使用する必要があります。

- 2 リモート デスクトップのシステム トレイで、VMware Horizon Collaboration のアイコン（たとえば、）をクリックします。

共同作業のアイコンは、Windows オペレーティング システムのバージョンによって異なります。

- 3 VMware Horizon Collaboration のダイアログ ボックスが開いたら、リモート デスクトップ セッションに参加するユーザーのユーザー名（たとえば、**testuser**、**domain\testuser**）またはメール アドレスを入力します。

特定のユーザーのユーザー名またはメール アドレスを初めて入力する場合には、[「<user>」の検索]をクリックしてカンマを入力するか、[Enter] キーを押してユーザーを検証する必要があります。ユーザー名またはメールアドレスを次に入力したときに、セッション共同作業機能がユーザーを記憶します。

デフォルトでは、最大 5 人のユーザーを招待できます。Horizon 管理者は、招待できるユーザーの最大数を変更できます。

- 4 招待方法を選択します。

デフォルトでは、次の招待方法を選択できます。Horizon 管理者は、E メールまたは IM での招待を無効にできます。

オプション	アクション
E メール	共同作業の招待状をクリップボードにコピーし、デフォルトのメール アプリケーションで新しいメール メッセージを開きます。この方法で招待する場合には、メール アプリケーションがインストールされている必要があります。
IM	共同作業の招待状をクリップボードにコピーし、Skype for Business で新しいウィンドウを開きます。Ctrl + V キーを押し、Skype for Business のウィンドウにリンクを貼り付けます。この方法で招待するには、Skype for Business がインストールされ、設定されている必要があります。
リンクのコピー	共同作業の招待状をクリップボードにコピーします。メモ帳などの別のアプリケーションを手動で開き、Ctrl + V キーを押して招待状を貼り付ける必要があります。

招待状の送信後、VMware Horizon Collaboration のアイコンがデスクトップに表示され、共同作業セッションのユーザー インターフェイスがダッシュボードに変わり、共同作業セッションの現在の状態が表示されます。ここで、特定のアクションを実行できます。

セッション共同作業者が招待を受け入れ、セッションに参加すると、システム トレイの VMware Horizon Collaboration のアイコンが赤いドットで表示され、ユーザーの参加が通知されます。



次に進む前に

VMware Horizon Collaboration のダイアログ ボックスで、共同作業セッションを管理します。[「共同作業セッションの管理」](#)を参照してください。

## 共同作業セッションの管理

招待状の送信後、共同作業セッションのユーザー インターフェイスがダッシュボードに変わり、共同作業セッションの現在の状態が表示されます。ここで、特定のアクションを実行できます。

開始する前に

共同作業セッションを開始します。[「リモート デスクトップ セッションに参加するユーザーの招待」](#)を参照してください。

手順

- 1 リモート デスクトップで、システム トレイにある VMware Horizon Collaboration のアイコンをクリックするか、デスクトップにある VMware Horizon Collaboration のアイコンをダブルクリックします。  
  
[名前] 列に、すべてのセッション共同作業者の名前が表示され、[ステータス] 列に共同作業者の状態が表示されます。
- 2 VMware Horizon セッション共同作業のダッシュボードを使用して、共同作業セッションを管理します。

オプション	アクション
招待を取り消すか、共同作業者を削除する	[ステータス] 列で [削除] をクリックします。
別のセッション共同作業者にコントロールを渡す	セッション共同作業者がセッションに参加した後、[コントロール] 列のスイッチを [オン] に切り替えます。  セッションの制御を再開するには、ダブルクリックするか、任意のキーを押します。セッション共同作業者は、[コントロール] 列のスイッチを [オフ] に切り替えるか、[コントロールを返す] ボタンをクリックすると、コントロールを返すことができます。
共同作業者を追加する	[共同作業者を追加] をクリックします。
共同作業セッションを終了する	[共同作業を終了] をクリックします。アクティブな共同作業者がすべて切断されます。  デスクトップで VMware Horizon セッション共同作業のアイコンをクリックし、[停止] ボタンをクリックしても、共同作業セッションを終了できます。

## 共同作業セッションへの参加

共同作業セッションに参加するには、共同作業の招待状のリンクをクリックします。このリンクは、E メールやインスタント メッセージで提供される場合も、セッション オーナーから転送された文書に含まれている場合もあります。また、サーバにログインして、リモート デスクトップとアプリケーションの選択ウィンドウで共同作業セッションのアイコンをダブルクリックすることもできます。

ここでは、共同作業の招待状から共同作業セッションに参加する方法について説明します。

**注意** クラウド ポッド アーキテクチャ環境では、セッション オーナーのポッドにログインする場合を除き、サーバにログインして共同作業セッションに参加することはできません。

共同作業セッションで次のリモート デスクトップ機能を使用することはできません。

- リアルタイム オーディオビデオ (RTAV)
- ロケーション ベースの印刷
- クリップボード リダイレクト

共同作業セッションでは、リモート デスクトップの解像度を変更できません。

#### 開始する前に

共同作業セッションに参加するには、クライアント システムに Horizon Client 4.7 for Windows、Mac、または Linux がインストールされているか、HTML Access 4.7 以降を使用する必要があります。

#### 手順

- 1 共同作業の招待状にあるリンクをクリックします。  
クライアント システムで Horizon Client が開きます。
- 2 認証情報を入力して、Horizon Client にログインします。  
認証に成功すると、共同作業セッションが開始し、セッション オーナーのリモート デスクトップが表示されます。セッション オーナーからマウスとキーボードのコントロールが渡されると、リモート デスクトップが使用できるようになります。
- 3 マウスとキーボードのコントロールをセッション オーナーに返すには、システム トレイにある VMware Horizon セッション共同作業のアイコンをクリックします。[コントロール] 列のスイッチを [オフ] に切り替えるか、[コントロールを返す] ボタンをクリックします。
- 4 共同作業セッションを終了するには、サイドバーの [閉じる] をクリックします。

## ログオフまたは切断

ログオフせずにリモート デスクトップから切断すると、リモート デスクトップ内のアプリケーションは開いたままになります。サーバから切断し、公開アプリケーションを実行したままにすることもできます。

#### 手順

- サーバからログアウトして、リモート デスクトップから切断（ただしログアウトはしません）するか、公開アプリケーションを終了します。

オプション	アクション
リモート デスクトップまたは公開アプリケーションに接続する前に、デスクトップとアプリケーションの選択ウィンドウから	ウィンドウの右上隅にある [ログアウト] ツールバー ボタンをクリックします。
リモート デスクトップや公開アプリケーションに接続したときにサイドバーから	サイドバーの上部にある [ログアウト] ボタンをクリックします。

- 公開アプリケーションを閉じます。

オプション	アクション
公開アプリケーションから	通常の方法で公開アプリケーションを終了します。たとえば、公開アプリケーション ウィンドウの隅の [X] (閉じる) ボタンをクリックします。
サイドバーから	サイドバーの [実行中] リストにある公開アプリケーション名の横にある [X] をクリックします。

- リモート デスクトップからログオフまたは切断します。

オプション	アクション
リモート デスクトップから	ログオフするには、Windows の [スタート] メニューを使用してログオフします。
サイドバーから	ログオフおよび切断するには、サイドバーの [実行中] リストにあるリモート デスクトップ名の横の [メニューを開く] ツールバー ボタンをクリックして、[ログオフ] を選択します。リモート デスクトップで開いているファイルが、保存されずに終了します。  ログオフせずに切断するには、[実行中] リストにあるリモート デスクトップ名の横の [メニューを開く] ツールバー ボタンをクリックして、[閉じる] を選択します。

**注意** Horizon 管理者は、切断時に自動的にログオフするようにリモート デスクトップを設定できます。その場合、リモート デスクトップで開いているアプリケーションは終了します。

## リモート デスクトップまたは公開アプリケーションのリセット

デスクトップ オペレーティングシステムが応答を停止し、リモート デスクトップを再起動しても問題が解決しない場合は、リモート デスクトップをリセットする必要がある場合があります。公開アプリケーションをリセットすると、開いているすべてのアプリケーションが終了します。

リモート デスクトップをリセットする操作は、物理的な PC を強制的に再起動するときに PC のリセット ボタンを押す操作と同じです。リモート デスクトップで開いているすべてのファイルが閉じられますが、保存されません。

公開アプリケーションをリセットすると、未保存のデータを保存せずにアプリケーションを終了します。複数の RDS サーバファームから提供されているアプリケーションであっても、開いているリモート アプリケーションはすべて閉じられます。

Horizon 管理者がリモート デスクトップのリセット機能を有効にしている場合にのみ、リモート デスクトップをリセットできます。

デスクトップのリセット機能を有効する操作の詳細については、『Horizon 7 での仮想デスクトップのセットアップ』または『Horizon 7 での公開されたデスクトップとアプリケーションのセットアップ』を参照してください。

### 手順

- ◆ [リセット] コマンドを使用します。

オプション	アクション
アプリケーションの選択ウィンドウから公開アプリケーションをリセットする	リモート デスクトップや公開アプリケーションに接続する前に、デスクトップとアプリケーションの選択ウィンドウから、実行中のすべての公開アプリケーションをリセットするには、画面の右上にある [設定] ツールバー ボタンをクリックして、[リセット] をクリックします。
サイドバーからリモート デスクトップをリセットする	リモート デスクトップに接続しているときに、サイドバーの [実行中] リストにあるデスクトップ名の横の [メニューを開く] ツールバー ボタンをクリックして、[リセット] を選択します。

オプション	アクション
サイドバーから公開アプリケーションをリセットする	実行中のすべてのアプリケーションをリセットするには、サイドバーの上部にある [[設定] ウィンドウを開く] ツールバー ボタンをクリックして、[リセット] をクリックします。
URI を使用したリモート デスクトップのリセット	リモート デスクトップをリセットするには、URI <code>https://&lt;ConnectionServerFQDN&gt;?desktopId=&lt;desktop_name&gt;&amp;action=reset</code> を使用します。

リモート デスクトップをリセットすると、リモート デスクトップのオペレーティング システムが再起動し、Horizon Client がリモート デスクトップから切断され、ログオフされます。公開アプリケーションをリセットすると、そのアプリケーションは終了します。

#### 次に進む前に

システムが完全に再起動するまで待機してから、リモート デスクトップや公開アプリケーションに再接続します。

## リモート デスクトップの再起動

リモート デスクトップのオペレーティング システムが応答しない場合、リモート デスクトップの再起動が必要になることがあります。リモート デスクトップの再起動は、Windows オペレーティング システムの再起動コマンドと似ています。通常、リモート デスクトップのオペレーティング システムは、再起動の前に未保存データを保存するように求めます。

Horizon 管理者がリモート デスクトップの再起動機能を有効にしている場合にのみ、リモート デスクトップを再起動できます。

デスクトップの再起動機能を有効する操作の詳細については、『Horizon 7 での仮想デスクトップのセットアップ』または『Horizon 7 での公開されたデスクトップとアプリケーションのセットアップ』を参照してください。

#### 開始する前に

Active Directory ユーザー名とパスワード、RSA SecurID ユーザー名とパスワード、RADIUS 認証ユーザー名とパスワードなどのログイン認証情報を取得します。

#### 手順

- ◆ [再起動] コマンドを使用します。

オプション	アクション
サイドバーから	リモート デスクトップに接続しているときに、サイドバーの [実行中] リストにあるリモート デスクトップ名の横の [メニューを開く] ツールバー ボタンをクリックして、[再起動] を選択します。
URI の使用	デスクトップを再起動するには、URI <code>https://&lt;ConnectionServerFQDN&gt;?desktopId=&lt;desktop_name&gt;&amp;action=restart</code> を使用します。

リモート デスクトップのオペレーティング システムが再起動し、Horizon Client がリモート デスクトップから切断され、ログオフされます。

#### 次に進む前に

システムが完全に再起動するまで待機してから、リモート デスクトップへの再接続します。

リモート デスクトップを再起動しても問題が解決しない場合、リモート デスクトップをリセットする必要がある場合があります。[「リモート デスクトップまたは公開アプリケーションのリセット」](#)を参照してください。